

2023 年度

保健医療学部 新入生調査

調査報告書

令和 5 年 10 月 23 日

札幌医科大学医療人育成センター・統合 IR 部門

目 次

I. 新入生調査の概要	4
① 目的.....	4
② 方法.....	4
(1) 調査期間.....	4
(2) 調査方法.....	4
(3) 調査対象.....	4
(4) 調査内容.....	4
③ 結果・考察.....	4
(1) 基本属性（居住地、交通手段、PC等の保有）.....	4
(2) 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価.....	4
(3) 進路選択に関わる情報収集と意思決定について.....	5
(4) 大学入学後の不安・期待、活動について.....	5
II. 結果・考察	6
① 基本属性.....	6
(1) 入試区分（図1）.....	6
(2) 入学前の居住地（2月時点）（図2）.....	6
(3) 入学後の住まい（図3）.....	6
(4) 主な通学手段（複数選択可）（図4, 図5）.....	6
(5) 情報端末の所有（図6）.....	6
② 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価（図7）.....	7
(1) 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）.....	7
(2) 高校時代における能動的な学習の経験（図8, 図9）.....	7
(3) 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（図10, 図11）.....	7
③ 進路選択に関わる情報収集と意思決定について.....	8
(1) 札幌医科大学を受験することを決定した時期（図12）.....	8
(2) 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）（図13, 図14）.....	8
(3) 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）（図15, 図16）.....	8
(4) 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率・満足度（表1, 図17, 図18）.....	8
(5) 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか(図19).....	9
(6) 札幌医科大学の選択理由（図20, 図21）.....	9
(7) 札幌医科大学の魅力（図22, 図23）.....	9
(8) 建学の精神の認知度（図24）.....	10
(9) アドミッションポリシーの認知度（図25）.....	10
④ 大学入学後の不安・期待、活動について.....	10

(1)	札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち (図 26, 図 27)	10
(2)	入学にあたって、不安に思っていること (図 28, 図 29)	10
(3)	現在 (4月) 困っていること (自由記載) (表 2)	11
(4)	大学生活の中で力を入れたい活動 (図 30, 図 31)	11
(5)	札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか (表 3)	11

Ⅲ. 図表	13
--------------------	-----------

Ⅳ. 資料 (調査票)	31
--------------------------	-----------

1. 新入生調査の概要

① 目的

本調査は、医療人育成センター統合 IR 部門が学部別に実施している調査の一環で、保健医療学部では初めての試みである。本調査は、1 年生を対象に入学直後に調査を行うことから、1) 学習、生活、心理面などさまざまな観点から新入生に必要な支援を検討することと、高校生時代に本学を受験することを決定した過程や学習の状況について調査を行い、翌年度以降の 2) 入学試験のあり方や各高校/高校生への情報提供や広報のあり方を検討する資料を得ることを目的としている。

② 方法

(1) 調査期間

2023 年 4 月

(2) 調査方法

アプリケーション Qooker を用いたインターネット調査

(3) 調査対象

2023 年度保健医療学部入学生（1 年生）90 名

(4) 調査内容

医学部で行われている新入生調査を参考に、医療人育成センター統合 IR 部門、保健医療学部 IR 連携 WG にて内容を検討し、保健医療学部拡大学科長会議、保健医療学部教務委員会/カリキュラム委員会での審議を経て内容を確定した。

1. 基本属性（居住地、交通手段、PC 等の保有）
2. 自身のコンピテンシーの認識
3. 高校生時代の生活、学習、意思決定について（進路選択、学習時間、学習経験）
4. 本学との関わり、認識（オープンキャンパス等への参加、本学の魅力、建学の精神やアドミッションポリシーの認知）
5. 大学生活への期待・不安、抱負

③ 結果・考察

(1) 基本属性（居住地、交通手段、PC 等の保有）

入学前の居住地は「札幌市内」と「札幌市外（北海道内）」が約半数であり、「北海道外」（3.7%）はわずかであった（図 2）。入学後の居住形態は「自宅（親所有の家・マンション等）」が最も多く（65.9%）次いで、「アパート（賃貸）」32.9%であった（図 3）。主な通学手段（複数選択可）は「徒歩」（56.1%）、「地下鉄」（54.9%）が多かった（図 4）。作業療法学科は「札幌市外（北海道内）」（64.7%）出身の者が多く（図 5）、結果として居住形態は「アパート（賃貸）」（47.1%）での 1 人暮らしが他学科より多くなっていた（図 3）。

情報端末の所有状況は、「PC（自分専用）」の所有率は 97.6%であり、「プリンタ」の所有率は 71.6%であった（図 6）。遠隔講義による学習は可能な準備状態にあるが、プリンタの必要性については入学前から情報提供を行って、準備を促す必要性がうかがえる。

(2) 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価

高校 3 年生 9 月頃における平日の勉強時間は「3～5 時間未満」（41.5%）が最も多かったが、それより

も短いまたは長いなど、学生の個人差が認められた(図7)。入学後の学習時間と併せて調査/検討する必要がある。高校時代における能動的な学習について、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」(73.2%)は3/4程度であった(図8)。知識・能力について、備わっていないとの自己評価が多かったのは「パソコンのソフトウェアの操作」(57.3%)、「英語(外国語)の運用能力」(39.1%)であった。保健医療学部のカリキュラムを検討する上で、プレゼンテーション能力の向上も含めて、一般教育科目等の充実を図る必要性があると考えられる。

(3) 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

札幌医科大学を受験することを決定した時期は「高校2年生」(37.8%)が最も多く、次いで「高校3年生4~12月」(23.2%)であった(図12)。時機を見極めた情報提供が求められる。

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」(90.2%)と「大学ホームページ」(80.5%)が最も活用されていた(図13)。これらの媒体の内容の充実を図るとともに、他の媒体の有効性について検討する必要がある。

本学を知るうえで役立った情報源(複数回答)は「高校の先生」(48.8%)、「オープンキャンパス」(36.6%)、「入試相談・説明会」(31.7%)、「家族・親戚」(31.7%)が多くなっていた(図15)。入学生における「オープンキャンパス」の参加率は半数強(54.9%)であったが、満足度はほぼ100%だった(表1)(図17)。本学の魅力を伝える有効な手段であるといえる。また、「高校で実施された大学説明会」(62.2%)への参加率も高いため、各高校との連携が今後も重要になると考えられる。

本学への入学(受験)を決めるにあたり意見やアドバイスを最も重視した相手は、「両親・保護者」(34.1%)が最も多く34.1%、「高校の先生」(31.7%)、「塾・予備校の先生」(15.9%)であった(図19)。本学を知る上での情報源も「家族」や「高校の先生」が挙げられていることから、高校生の家族までを視野に入れた情報提供の内容や方法の検討や、高校との連携を継続的にはかっていく必要がある。

本学を選択した理由は、「入学金・学費などの適切性(国公立だからを含む)」(63.8%)が最も多く、次いで「カリキュラムや授業構成」(57.1%)、「教授・講師陣が充実している」(54.5%)、「キャンパスの立地や周辺環境」(53.2%)が多くなっていた(図20)。これらの強みを活かした広報戦略が必要とされる。

(4) 大学入学後の不安・期待、活動について

札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ちとして、入学を希望していた大学/学部であるかどうかは、ほとんどの学生が肯定的な回答をしていたが、学科/年度によってその割合が異なっていた(図26, 図27)。入学にあたって、不安に思っていることは、「学業についての不安」(62.2%)が最も多く、次いで、「友人などの人間環境」(32.9%)、「経済的なこと」(18.3%)で、作業療法学科では「経済的なこと」(35.3%)、「住まい・通学などの生活環境のこと」(23.5%)等の生活全般に関する不安が多くなっていた(図28, 図29)。各学科の学生の状況をふまえ、学生が相談できる環境の構築とその周知が肝要と考えられる。

大学生活の中で『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」(87.8%)、「語学に関する勉強」(36.6%)、「部活・サークル活動」(36.6%)だった(図30)。「海外への短期留学」は、『力を入れたいと思わない』と回答した学生も多く(26.8%)、国際化に向けた啓発が必要と考えられる。札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについては、「専門的な知識や技術の習得」、「地域医療」や「多職種連携」が挙げられており、これらの教育について一層の充実が望まれる(表3)。

II. 結果・考察

① 基本属性

(1) 入試区分 (図 1)

入試区分について、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」の二択で一で回答を得た。

その結果、学部全体では「一般選抜」が 84.1%であった。学校推薦型選抜の合格者数の変動に応じて、学科・年度による入試区分別合格者の割合は異なっていた。

(2) 入学前の居住地 (2 月時点) (図 2)

出身地について、「札幌市内」、「札幌市外 (北海道内)」、「北海道外」の三択で一で回答を得た。

その結果、「札幌市内」と「札幌市外 (北海道内)」が約半数であり、「北海道外」は 3.7% (2022 年度: 1.1%) であった。学科別にみると、作業療法学科は「札幌市外 (北海道内)」(64.7%) が他学科と比較して割合が高く、「北海道外」はいなかった。

(3) 入学後の住まい (図 3)

入学後の住まいについて、「自宅 (親所有の家・マンション等)」、「アパート (賃貸)」、「下宿・寮」、「その他」の四択で一で尋ねた。

その結果、学部全体では、「自宅 (親所有の家・マンション等)」が最も多く 65.9%を占めていた。次いで、「アパート (賃貸)」32.9%、「下宿・寮」1.2%という結果であった。学科別にみると、作業療法学科は「アパート (賃貸)」が 47.1%と高く、一人暮らしの学生が多いことを反映した結果と推察される。

(4) 主な通学手段 (複数選択可) (図 4, 図 5)

主な通学手段について、「徒歩」、「自転車」、「地下鉄」、「バス」、「市電」、「JR」、「その他」のうち複数選択可で尋ねた。

その結果、最も多かったのは「徒歩」で 56.1%を占め、次いで「地下鉄」が 54.9%であった。さらに「自転車」、「JR」、「バス」、「市電」の順で回答が多かった。学科別にみると、看護学科は「地下鉄」が多く、作業療法学科は「徒歩」が多い結果であった。これは入学後の住まいが、作業療法学科は「アパート (賃貸)」が最も多いことを反映した結果と推察される。

(5) 情報端末の所有 (図 6)

情報端末の所有状況として、「タブレット・pad」、「PC (自分専用)」、「プリンタの所有状況」を尋ねた。

その結果、「PC (自分専用)」の所有率は 97.6%であり、理学療法学科は全ての学生が PC を所有していた。「タブレット・pad」の所有率は 32.9%であり、2022 年度の調査に比較して倍増していた。「プリンタ」の所有率は 71.6%であり、作業療法学科は 62.5%とやや低い結果となった。

今年度より遠隔講義を受講する機会は少なくなったが、ほとんどの学生が 4 月の時点で自分専用の PC を保有しており、遠隔講義による学習は可能な状態にあると考えられる。一方で、レポートや講義・実習資料の印刷に必要なプリンタを所有していない学生が 3 割程度いるため、学習のための準備性における課題もうかがえる。

② 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価（図 7）

（1）高校 3 年生の 9 月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）

高校 3 年生の 9 月頃における平日の勉強時間について、「ほとんどしなかった」、「1 時間未満」、「1～3 時間未満」、「3～5 時間未満」、「5～7 時間未満」、「8 時間以上」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「3～5 時間未満」が最も多く 41.5%、次いで「1～3 時間未満」と「5～7 時間」が 25.6%であった。「ほとんどしなかった」学生も少ないが存在していた。2022 年度と比較すると「3～5 時間未満」が減り、「1～3 時間未満」が増加していた。学科別にみると、理学療法学科が「5～7 時間未満」の割合が他学科より高く、作業療法学科では、「8 時間以上」の者が 11.8%いた。

（2）高校時代における能動的な学習の経験（図 8, 図 9）

高校時代における能動的な学習について、「自分から先生に質問や相談に行く」、「自分で設定したテーマについて学習する」、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」、「複数の学生で一つのテーマ（課題）に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」の経験の有無について回答を得た。

その結果、「複数の学生で一つのテーマ（課題）に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」、「自分から先生に質問や相談に行く」は 90.0%以上が経験していたが、「自分で設定したテーマについて学習する」は 81.7%、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」は 73.2%であった。

プレゼンテーションの経験が少ないことはコロナ禍における学習の特徴である可能性もあるが、能動的な学習は専門職を目指す本学部の学習において必須であり、経験をもたない学生への意識付け、指導が必要であるといえる。

（3）現時点（4 月）での知識・能力の自己評価（図 10, 図 11）

新入生の知識・能力について、「医療系の専門に係る知識」、「幅広い教養、英語（外国語）の運用能力」、「社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力」、「課題を解決するための問題解決力」、「異文化や異なる背景をもつ人々に対する理解力」、「パソコンのソフトウェアの操作（2023 年度調査からの新設項目）」、「SNS を安全に使うためのルール・方法（2023 年度調査からの新設項目）」の 7 項目の内容がどの程度備わっているのか、「充分備わっている」から「全く備わっていない」の五肢択一の回答を得た。

その結果、『あまり備わっていない』と『全く備わっていない』をあわせた回答の割合が高いのは、「医療系の専門に関する知識」（72.0%）、「パソコンのソフトウェアの操作」（57.3%）、「英語（外国語）の運用能力」（39.1%）であった。一方で、「SNS を安全に使うためのルール、方法」は『充分備わっている』または『ある程度は備わっている』と回答した割合が高かった（91.5%）。学科別にみると、作業療法学科で「英語（外国語）の運用能力」と「異文化や異なる背景をもつ人々に対する理解力」の項目で『充分備わっている』または『ある程度は備わっている』と回答した割合が、それぞれ 29.4%、52.9%と他学科よりも自己評価が低くなっていた。

新入生は医療系の専門に関する知識を高校で学修していないため、この結果は妥当である。一方で、「パソコンのソフトウェアの操作」については、高校の情報などの科目で触れられていることが推察されるが、自己評価が低い学生が多くなっていた。英語（外国語）同様に、保健医療学部のカリキュラムを検討する上で、一般教育科目の充実を図る必要があると考えられる。

③ 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

(1) 札幌医科大学を受験することを決定した時期（図 12）

札幌医科大学を受験することを決定した時期について、「高校入学前」、「高校 1 年生」、「高校 2 年生」、「高校 3 年生 4～12 月」、「高校 3 年生 1 月以降」、「高校卒業後」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「高校 2 年生」が最も多く 37.8%、次いで「高校 3 年生 4～12 月」23.2%であった。学科別でみると、作業療法学科において「高校 1 年生」が 41.2%と多いが、「高校 3 年生 1 月以降」も 17.6%と多く、二極化していた。

高校での履修科目決定時期も踏まえ、できる限り早期に本学の情報提供をしていく必要がある。

(2) 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）（図 13, 図 14）

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」、「大学ホームページ」、「受験企業等の WEB サイト」、「受験雑誌」、「大学ポスター」、「新聞記事等」から複数回答可で回答を得た。

その結果、「大学パンフレット」が最も多く 90.2%で、次いで「大学ホームページ」が 80.5%であった。「受験企業等の WEB サイト」、「受験雑誌」、「大学ポスター」、「新聞記事等」、「その他」については、3.7～14.6%であった。学科別にみると、看護学科は「大学ホームページ」が少なく（74.5%）、受験企業等の Web サイト（19.1%）と受験雑誌（10.6%）が多い傾向が見られた。

大学パンフレットは高校訪問等で冊子を配布している他、大学ホームページに掲載しており、活用のしやすさがあったと思われる。このように受験希望者がいつでも閲覧できる媒体の充実が必要であるといえる。また、大学ポスターや新聞記事等については、入手の有無、進路選択における有用性の有無について検討を行い、より効果的な媒体による情報提供をしていく必要があると考える。

(3) 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）（図 15, 図 16）

本学を知るうえで役立った情報源として、「出前講座」、「家族・親戚」、「オープンキャンパス」、「高校の先生」、「知人・先輩」、「入試相談・説明会」、「予備校」から、複数回答可で回答を得た。

その結果、「高校の先生」が 48.8%と最も多く、次いで「オープンキャンパス」が 36.6%、「家族・親戚」と「入試相談・説明会」が 31.7%であった。学科別でみると、看護学科は「高校の先生」（53.2%）、「オープンキャンパス」（42.6%）がとくに多かった。作業療法学科は、他の学科に比べて「出前授業」（29.4%）が多く、「オープンキャンパス」（17.6%）「入試相談・説明会」（11.8%）が少ない傾向が見られた。

「高校の先生」は 3 学科ともに最も多いが、高校生にとって役立つ情報源には学科によって差があるため、各々の内容を充実させ、本学の魅力を発信していく必要がある。コロナ禍においてオンデマンドで配信した「オープンキャンパス」であったが、学生には役立つ情報であったといえる。今後は、コロナ禍前と同様に来学により教育環境を充分体感できる企画が必要である。

(4) 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率・満足度（表 1, 図 17, 図 18）

「オープンキャンパス」、「高校で実施された大学説明会」、「塾・予備校で実施された大学説明会」、「一般の会場で実施された大学説明会」、「その他、模擬授業など」の全 5 項目について、その参加率と満足度

の回答を得た。満足度については『満足』、『どちらかといえば満足』、『どちらかといえば不満』、『不満』から四肢択一の回答を得た。

参加率は、「オープンキャンパス」(54.9%)、「高校で実施された大学説明会」(62.2%)への参加率が高い割合を示した。満足度は5項目全てにおいて、『満足』、『どちらかといえば満足』を合わせてほぼ100%に近い満足度であった。「オープンキャンパス」については2022年度(『満足』:62.2%)よりも満足度が高くなっているが、さらに高められる余地があると考えられる。学科別にみると、「オープンキャンパス」については、すべての学科で『満足』と回答した割合が2022年度と比較して上昇していた。

(5) 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか(図19)

本学への入学(受験)を決めるにあたり、最も重視した意見やアドバイスを受けた人について、「両親・保護者」、「兄弟・姉妹」、「高校の先生」、「塾・予備校の先生」、「親戚や知人」、「本学に在学中の友人や先輩」、「特に相談しなかった」の七肢択一で回答を得た。

その結果、「両親・保護者」が最も多く34.1%、次いで「高校の先生」31.7%、「塾・予備校の先生」15.9%の順であった。学科別にみると、理学療法学科は「両親・保護者」の割合が低く(11.1%)、「特に相談しなかった」の割合が高い(22.2%)のが特徴的であった。

高校生のみではなく、その両親・保護者を視野に入れた情報提供の内容と方法を検討していく必要がある。また、本学を知るうえで役立った情報と同様に「高校の先生」も進路選択の重要な役割を担っており、高校との連携を継続的にはかっていく必要がある。

(6) 札幌医科大学の選択理由(図20, 図21)

札幌医科大学を選択した理由について、「札幌医科大学のブランドやイメージ」、「カリキュラムや授業構成」、「教授・講師陣が充実している」、「入学金・学費などの適切性(国公立だからを含む)」、「キャンパスの立地や周辺環境」、「両親や先生から勧め」、「自分の能力レベルに相応」、「通学の利便性」の全8項目について、『大きな理由になった』、『少しは理由になった』、『情報はあったが、理由にはならなかった』、『情報がなかった・知らなかった』から四肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体として『大きな理由になった』と回答したのは、「入学金・学費などの適切性(国公立だからを含む)」(63.8%)が最も多く、次いで「カリキュラムや授業構成」(57.1%)、「教授・講師陣が充実している」(54.5%)、「キャンパスの立地や周辺環境」(53.2%)が多くなっていた。これらの強みを活かした広報戦略が必要とされる。

学科別にみると、理学療法学科では「カリキュラムや授業構成」(72.2%)、「教授・講師陣が充実している」(70.6%)を理由として挙げている割合が高い傾向にあった。また作業療法学科は、「入学金・学費などの適切性(国公立だから、を含む)」(70.6%)を選択理由とした割合が高い結果であった。

(7) 札幌医科大学の魅力(図22, 図23)

本学の魅力について、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」、「札幌医科大学の教授陣が魅力的である」、「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」、「札幌医科大学周辺の環境が魅力的である」の4項目について、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらともいえない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』から五肢択一の回答を得た。

「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」について、『そう思う』の回答がそれぞれ 84.1%、74.4%と高かった。

学科別にみると、作業療法学科では、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」に『そう思う』(47.1%)と回答する割合が低く、また、理学療法学科と作業療法学科で「札幌医科大学周辺の環境が魅力的である」に『そう思う』と回答する割合がそれぞれ 33.3%、47.1%と低かった。

(8) 建学の精神の認知度 (図 24)

本学の建学の精神について、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体及び各学科に共通して、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が 2022 年度よりも 2023 年度で上昇していることから、認知度が上がっていること、また建学の精神を理解した上で入学する傾向が高まっていると言える。一方で、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」と回答する割合が 5%前後と一定数いることから、入学時のオリエンテーション等で周知する等の対応が必要と考える。

(9) アドミッションポリシーの認知度 (図 25)

保健医療学部のアドミッションポリシーについて、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、建学の精神同様に、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が 2022 年度よりも 2023 年度で上昇していることから、認知度が上がっていること、またアドミッションポリシーを理解した上で入学する傾向が高まっていると言える。

④ 大学入学後の不安・期待、活動について

(1) 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち (図 26, 図 27)

札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ちとして、「1. 入学を希望していた大学である」、「2. 入学した学部は希望通りの学部である」の 2 つの質問を設け、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらでもない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』から五肢択一の回答を得た。

その結果、1 については、学部全体で『そう思う』(91.5%)、『どちらかといえばそう思う』(8.5%)を合わせて 100%であった。とくに看護学科では『そう思う』が 95%以上を占めており、第 1 選択として本学を志望していた。

2 については、学部全体で『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』を合わせて 95.1%であった。作業療法学科では、『そう思う』と回答した割合が 76.5% (2022 年度: 50.0%) と、他学科よりも低かった。

(2) 入学にあたって、不安に思っていること (図 28, 図 29)

入学にあたって不安に思っていることについて、「経済的なこと」、「住まい・通学などの生活環境のこと」、「健康に関すること」、「学業についての不安」、「友人などの人間環境」、「卒業後の進路・勤務に関する

ること」、「その他」、「特にない」のうち、複数回答可で尋ねた。

その結果、「学業についての不安」が最も多く 62.2%であった。次いで、「友人などの人間環境」(32.9%)、「経済的なこと」(18.3%)、「卒業後の進路・勤務に関すること」(15.9%)、「住まい・通学などの生活環境のこと」(11.0%)、「健康に関すること」(9.8%)であった。一方で、「特にない」と答えた学生は 18.3%であった。これらの順序や割合は、2022 年度調査とほぼ変わらない結果であった。学科ごとにみると、理学療法学科では「卒業後の進路・勤務に関すること」(22.2%) がやや多く、作業療法学科では「経済的なこと」(35.3%)、「住まい・通学などの生活環境のこと」(23.5%) 等の生活全般に関する不安が他の学科と比較して多い結果であった。

以上より、各学科の特徴をふまえた、新入生の不安軽減に向けた情報提供やサポート等が必要だと考える。

(3) 現在（4月）困っていること（自由記載）（表2）

現在（4月）困っていることについて自由記述で回答を求めたところ、看護学科6件、理学療法学科2件、作業療法学科1件の回答があった。

具体的には、「ワクチン接種」「持病」などの健康状態に関することが3件、「履修登録がよく分からない」、「まだ学校の教室の位置を理解できていない」といった学修システムや環境に関することが2件、「友人ができるか不安」など人間関係のことが2件、「理系科目が苦手なため、勉強についていけるかが不安」といった学業に関することが1件、「将来像が見えていない」といった将来に関することは1件であった。

この欄に記載したのは全体の 10%であったが、困っていることの内容は多岐に渡っていた。学修システムや環境など、学生生活を積み重ねるにつれて習得する内容もあるが、健康状態や将来像などは学生生活を通して持続的に続く可能性のある困り事であるため、学生自身で問題解決が困難になった場合に相談できる環境を作っていくことが必要である。

(4) 大学生活の中で力を入れたい活動（図30、図31）

大学生活の中で力を入れたい活動として、「学部の専門的な勉強」、「語学に関する勉強」、「部活・サークル活動」、「社会活動・ボランティア活動」、「海外への短期留学」、「アルバイト」、「一般教育科目の勉強」の7項目について、『特に力を入れたい』から『力を入れたいと思わない』の四肢択一の回答を得た。

その結果、『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」(87.8%)であり、次いで「語学に関する勉強」と「部活・サークル活動」が 36.6%で同率だった。2022 年度と比較して、「部活・サークル活動」、「海外への短期留学」について、『力を入れたい』と回答した学生の割合が増えており、ポストコロナの生活に対する学生の期待の表れと見て取れる。しかし、「海外への短期留学」については、『力を入れたいと思わない』と回答した学生も 26.8%と多く、前向きな学生とそうではない学生に二極化している。

(5) 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（表3）

札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについて、自由記載で回答を求めた。

看護学科では 27 件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「看護師としての専門的な知識や技術」、「コミュニケーション能力の獲得」、「一般教養の学習」などであった。その他に、「専攻科への進学」、

「キャリア形成」、「部活動・サークル活動」、「地域医療」や「多職種連携」などが挙げられた。理学療法学科は11件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「スポーツ医学」、「地域医療」、「語学の学習」であった。その他の回答としては、「一般教養の学習」、「専門科目の学習」などが挙げられた。作業療法学科も11件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「コミュニケーション能力の獲得」や「地域医療の学習」であった。その他の回答としては、「リーダーとなるために必要なスキルの獲得」や「専門科目の学習」などが挙げられた。

全体を通して、「専門的な知識や技術の習得」をはじめ、「地域医療」や「多職種連携」が特徴的であり、札幌医科大学に求められる内容だと推察できる。加えて、「キャリア形成」をはじめ、保健医療専門職としての資質を高め、将来的にリーダーシップとなれる人材を養成することも札幌医科大学に求められている役割だと考えられる。

Ⅲ. 図表

図1. 入試区分

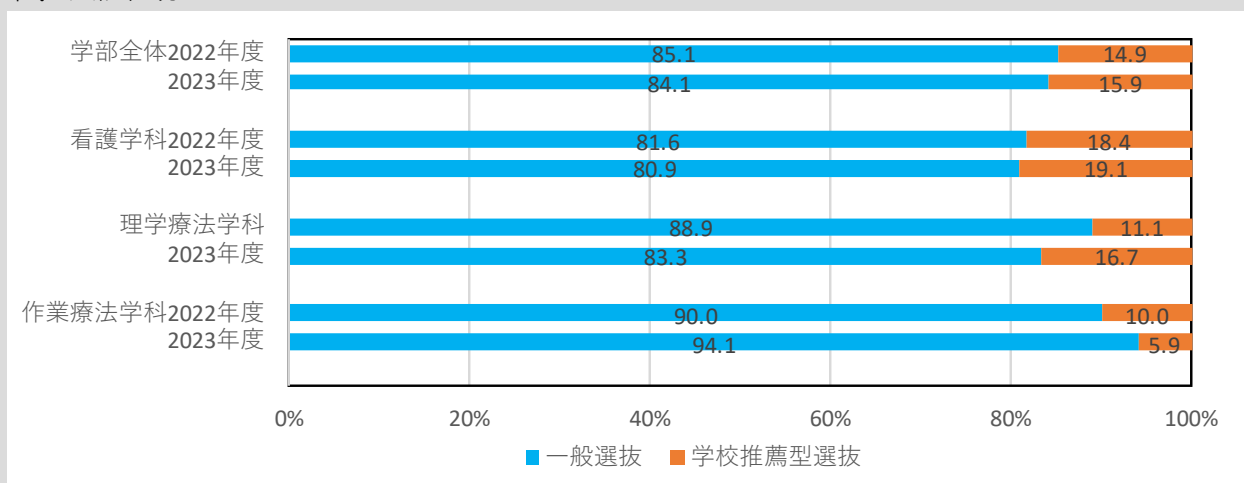


図2. 入学前の居住地 (2月時点の居住地)

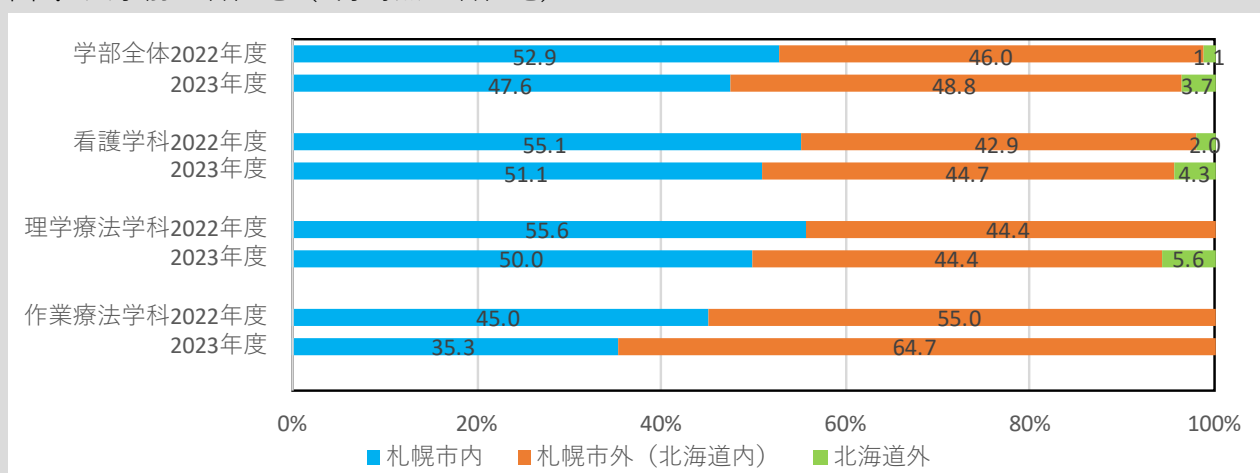


図3. 入学後の住まい

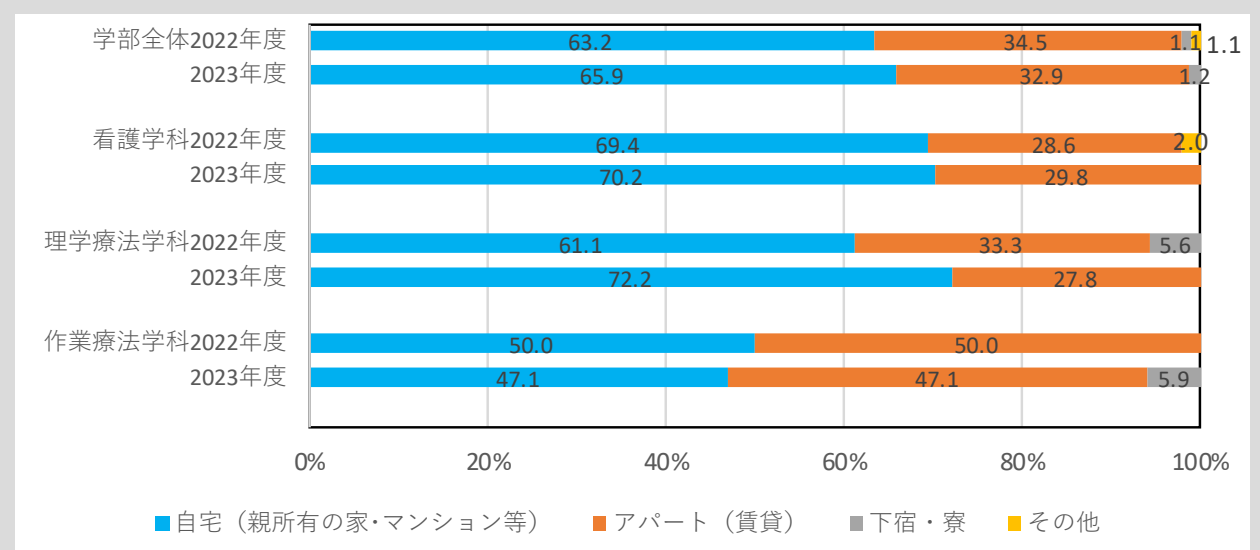


図4. 主な通学手段（複数選択可）

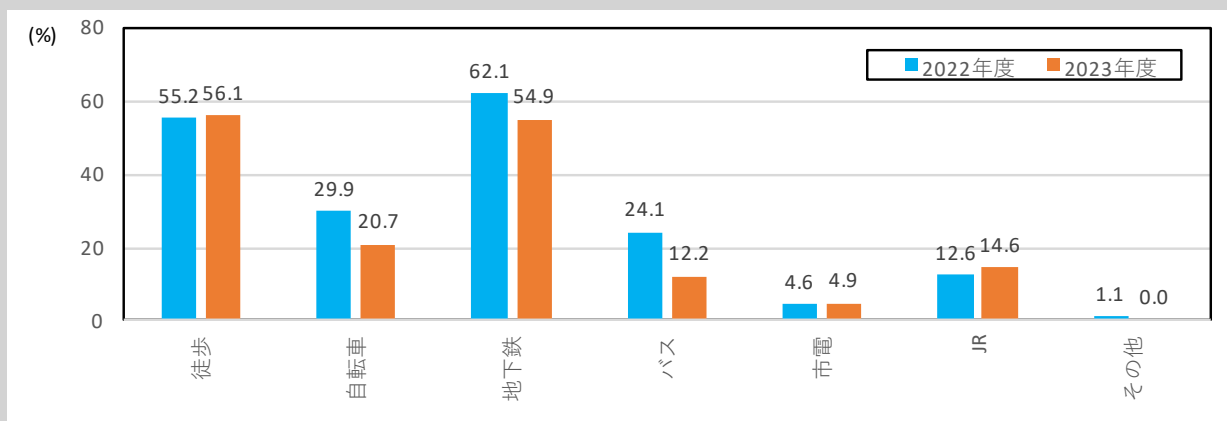


図5. 主な通学手段（複数選択可）：学科別（2023年度）

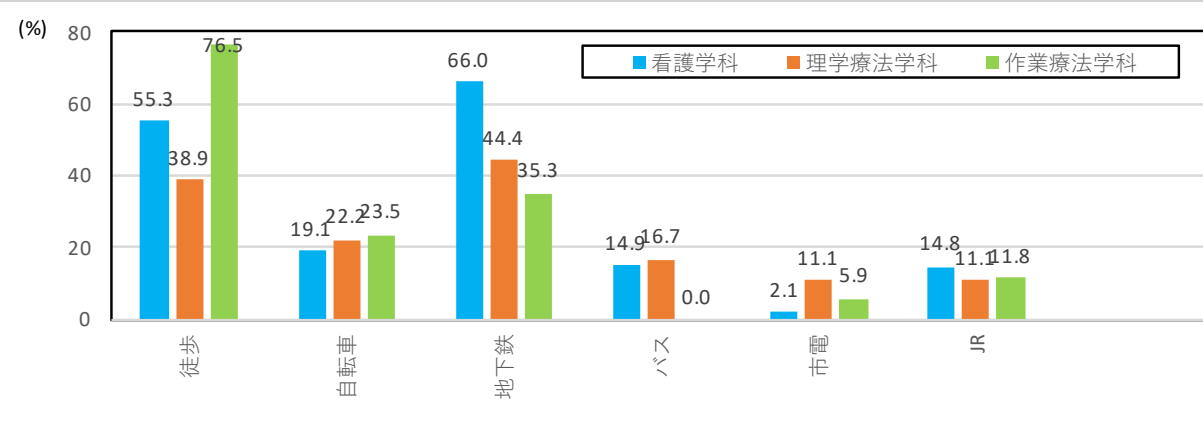


図6. 情報端末の所有（複数回答可）

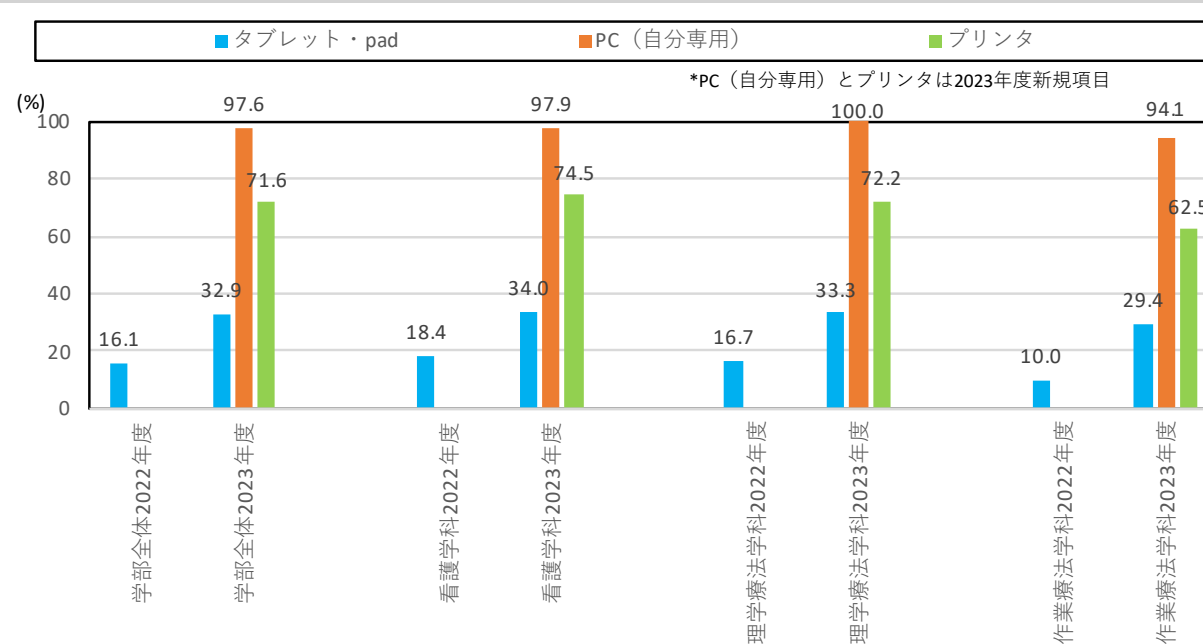


図7. 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）

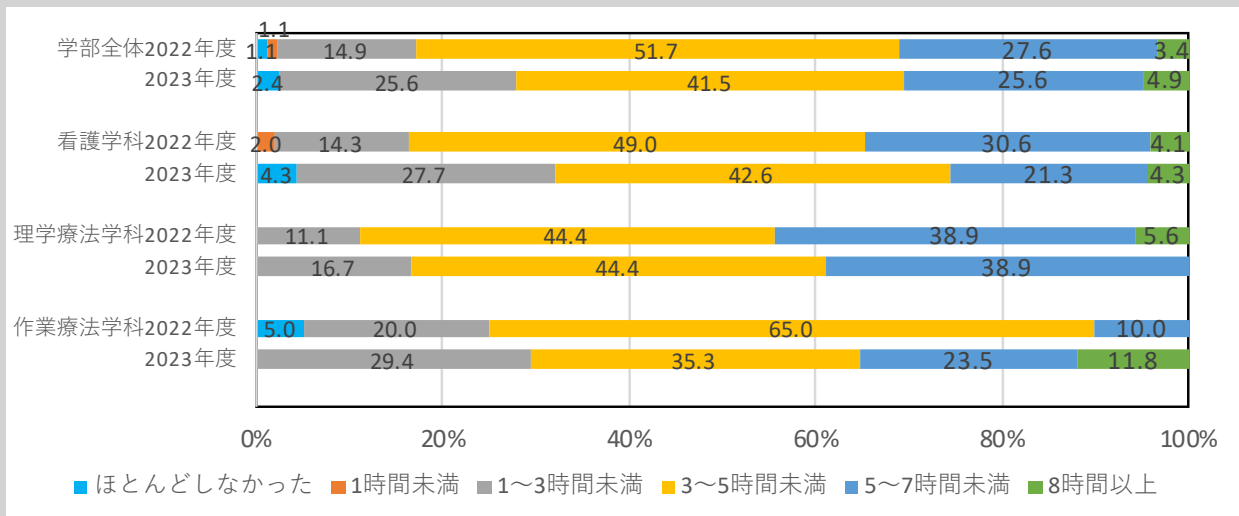


図8. 高校時代における能動的な学習の経験：学部全体

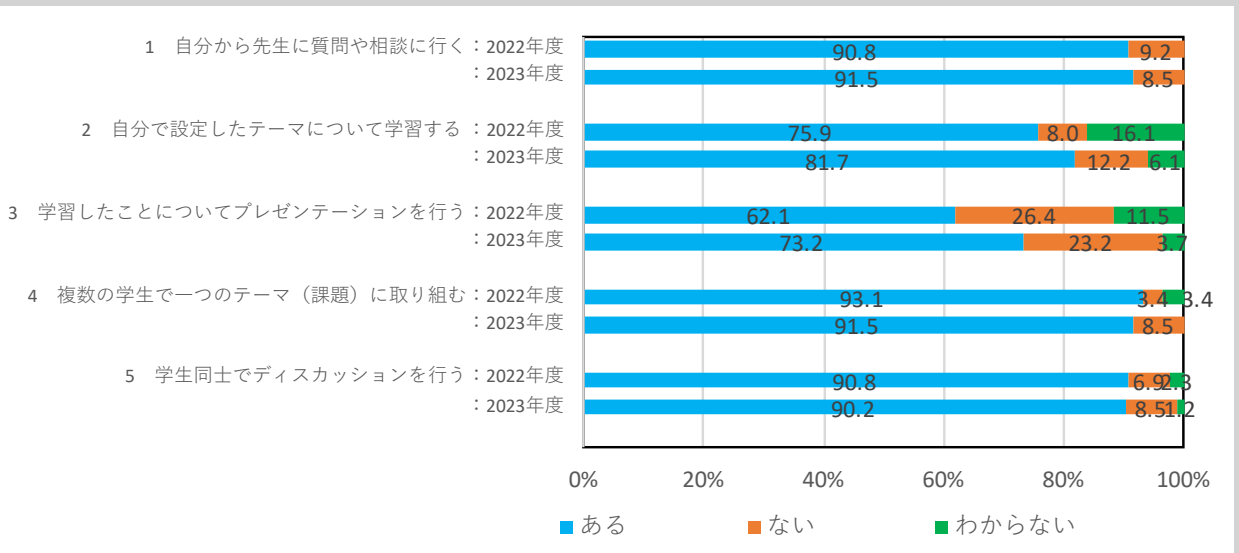


図9. 高校時代における能動的な学習の経験：学科別

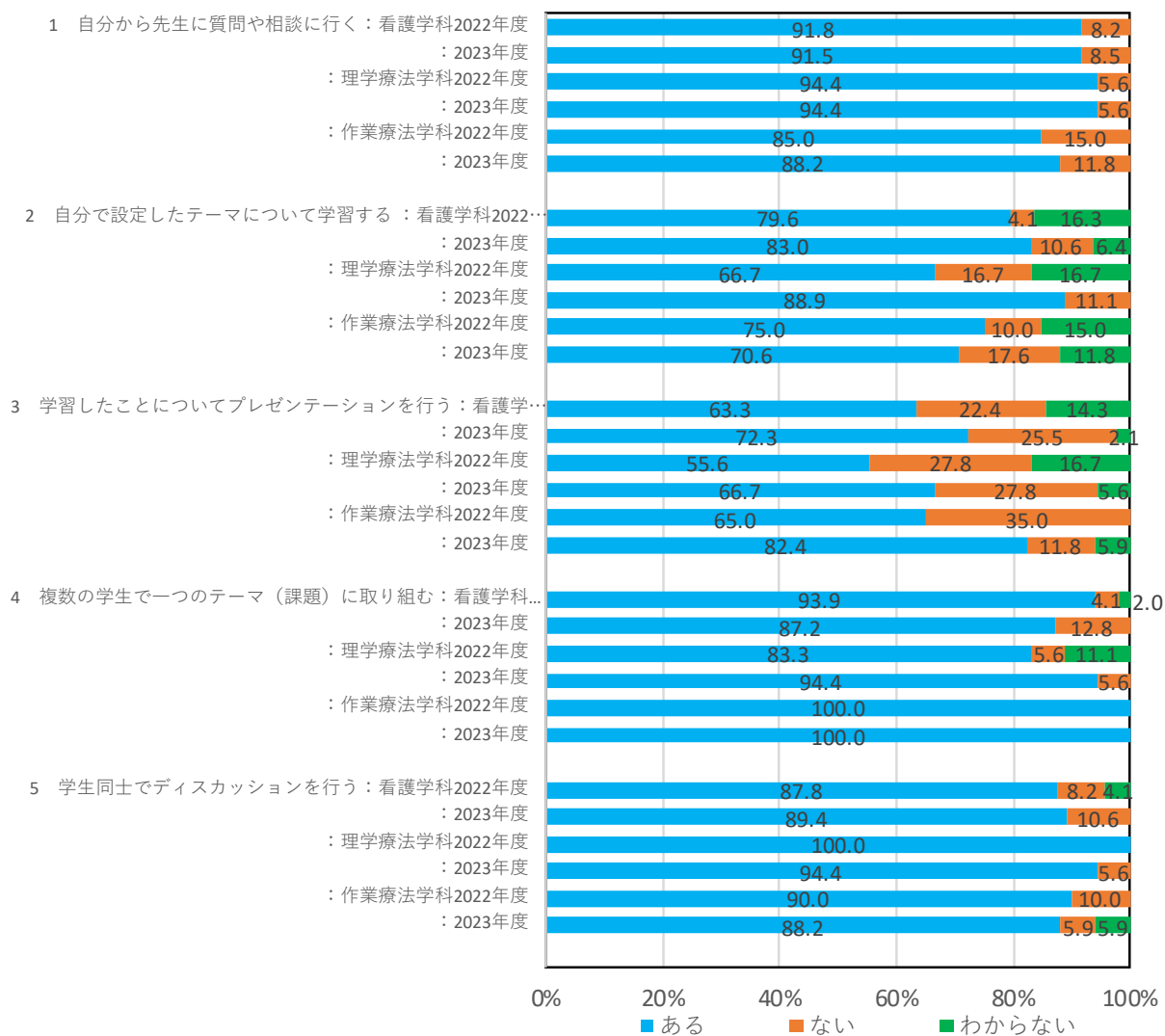


図10. ⑮現時点（4月）での知識・能力の自己評価

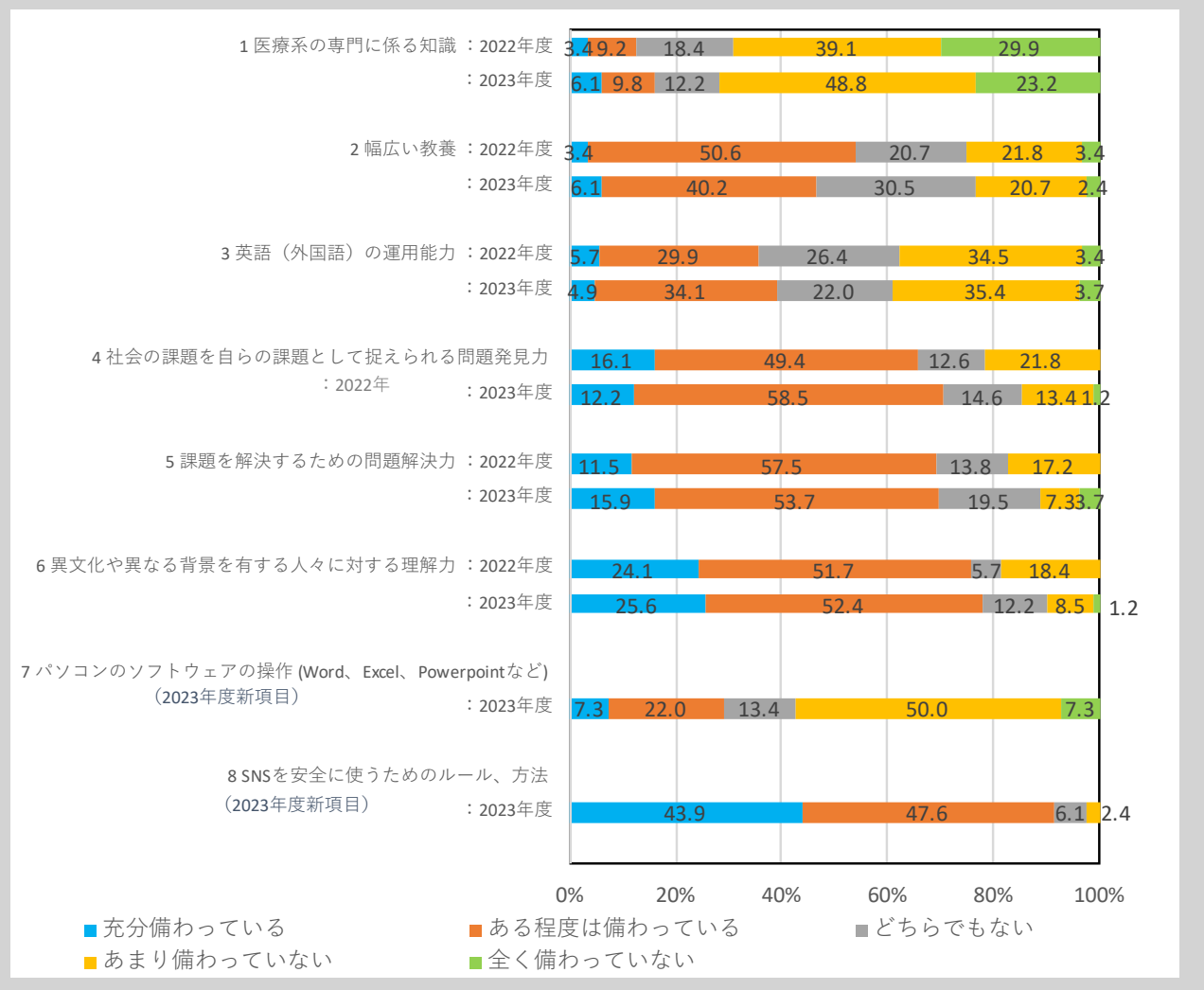


図11. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（学科別）

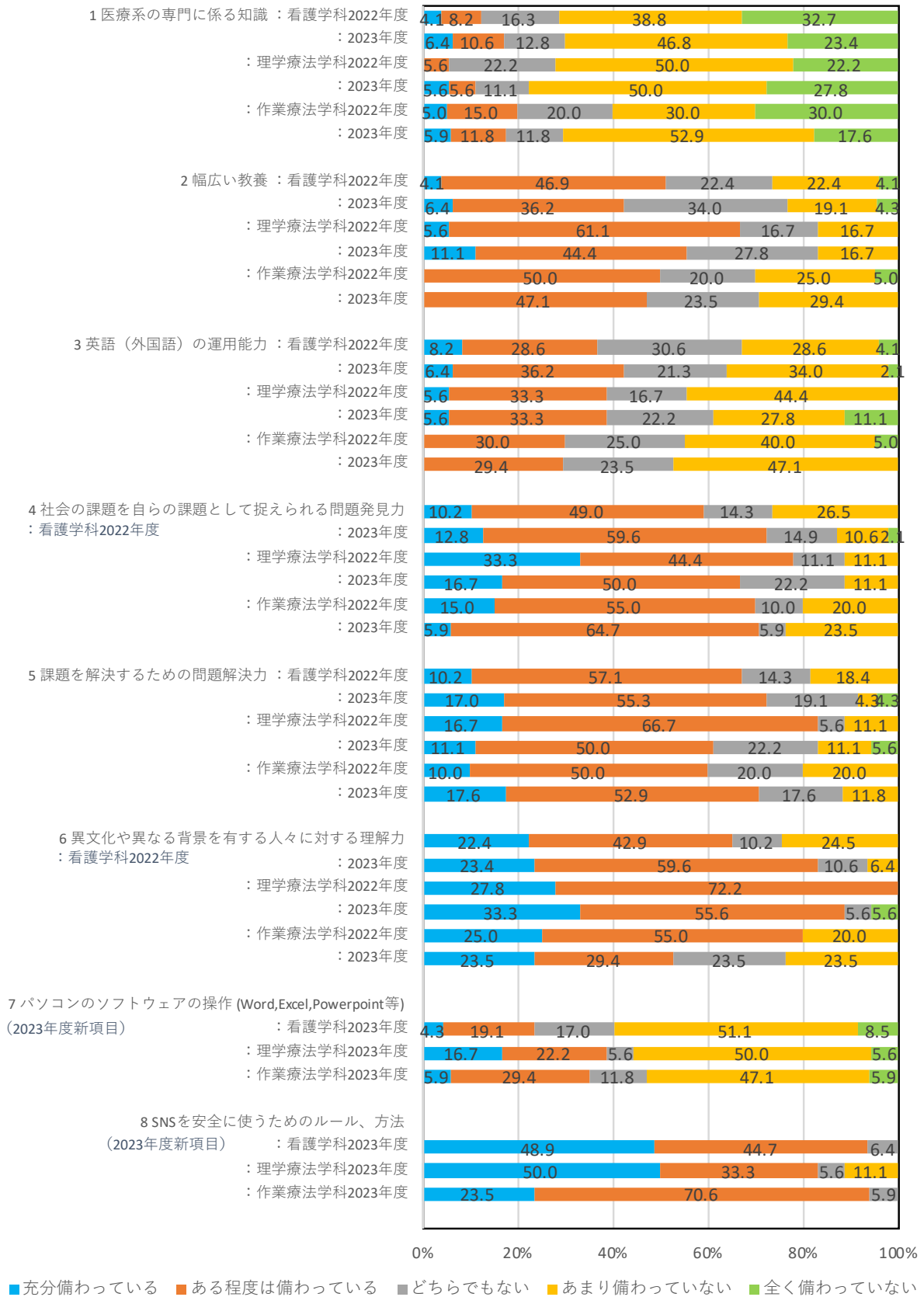


図12. 札幌医科大学を受験することを決定した時期

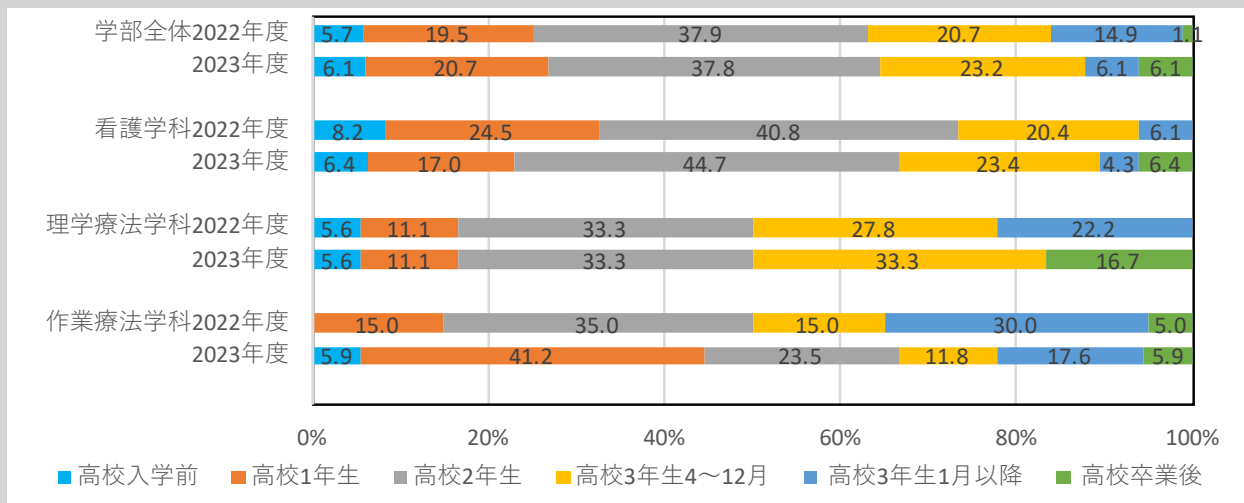


図13. 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）：学部全体

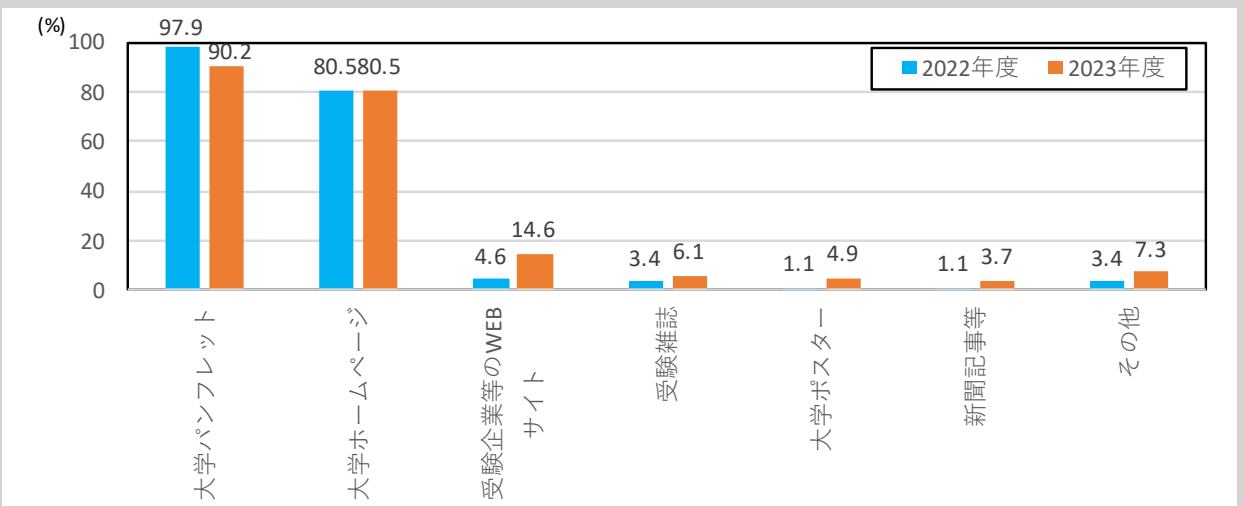


図14. 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）：学科別（2023年度）

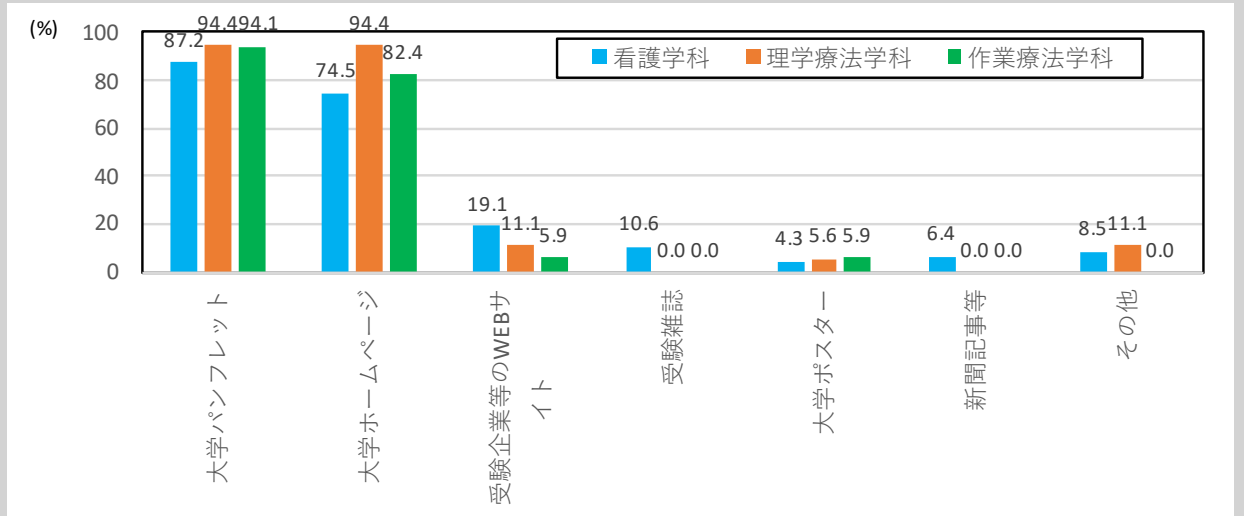


図15. 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）：学部全体

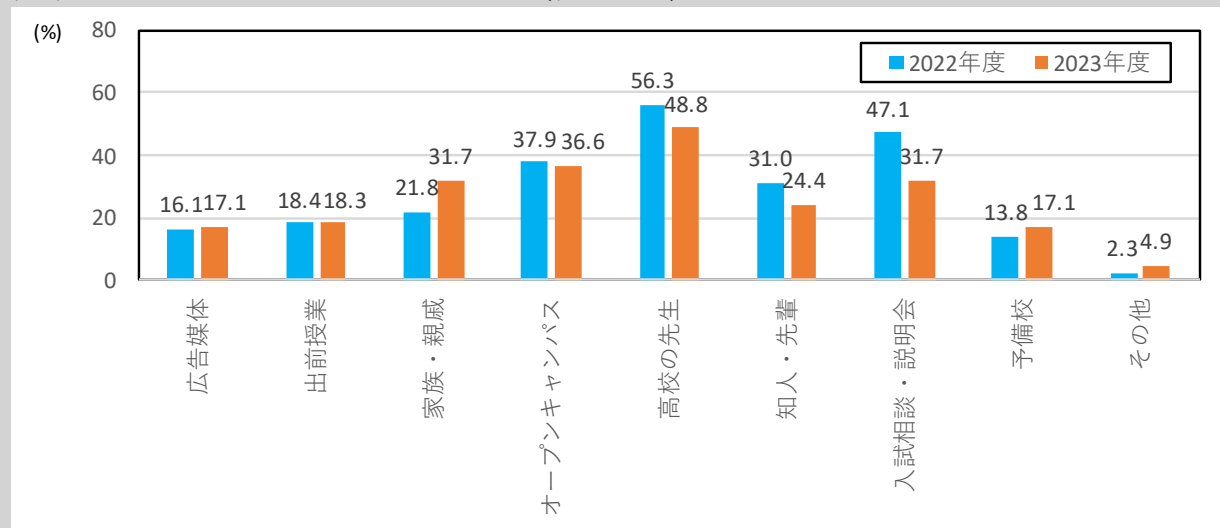


図16. 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）：学科別（2023年度）

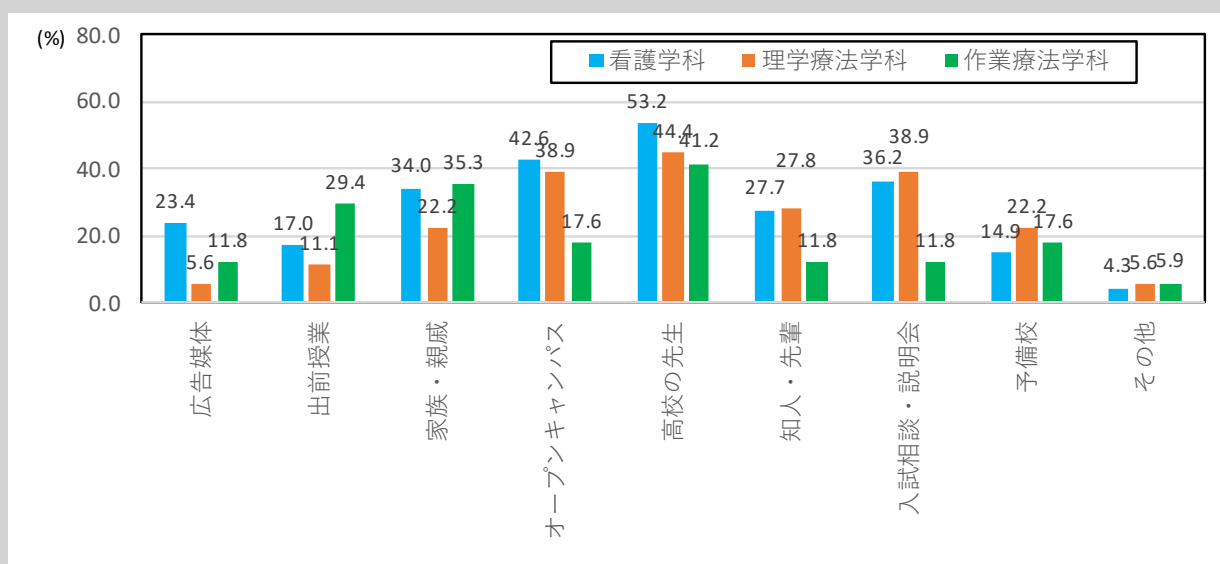


表1. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率（%）

学科	年度	オープンキャンパス	高校で実施された大学説明会	塾・予備校で実施された大学説明会	一般の会場で実施された大学説明会	その他、模擬授業など
学部全体	2022	51.7	73.6	3.4	6.9	21.7
	2023	54.9	62.2	8.5	11.0	28.0
看護学科	2022	51.0	75.5	2.0	8.2	24.5
	2023	55.3	68.1	8.5	10.6	27.7
理学療法学科	2022	50.0	66.7	5.6	0.0	16.7
	2023	66.7	61.1	5.6	11.1	33.3
作業療法学科	2022	55.0	75.0	5.0	10.0	15.0
	2023	41.2	47.1	1.8	11.8	23.5

図17. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度（参加者のみ）

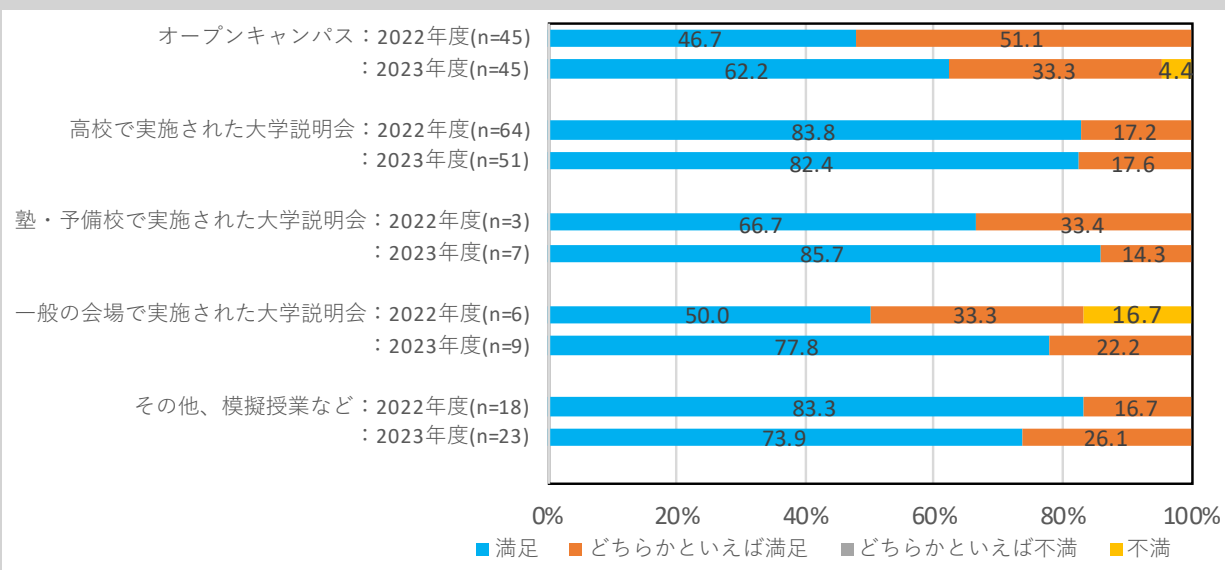


図18. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度(参加者のみ):学科別 *抜粋

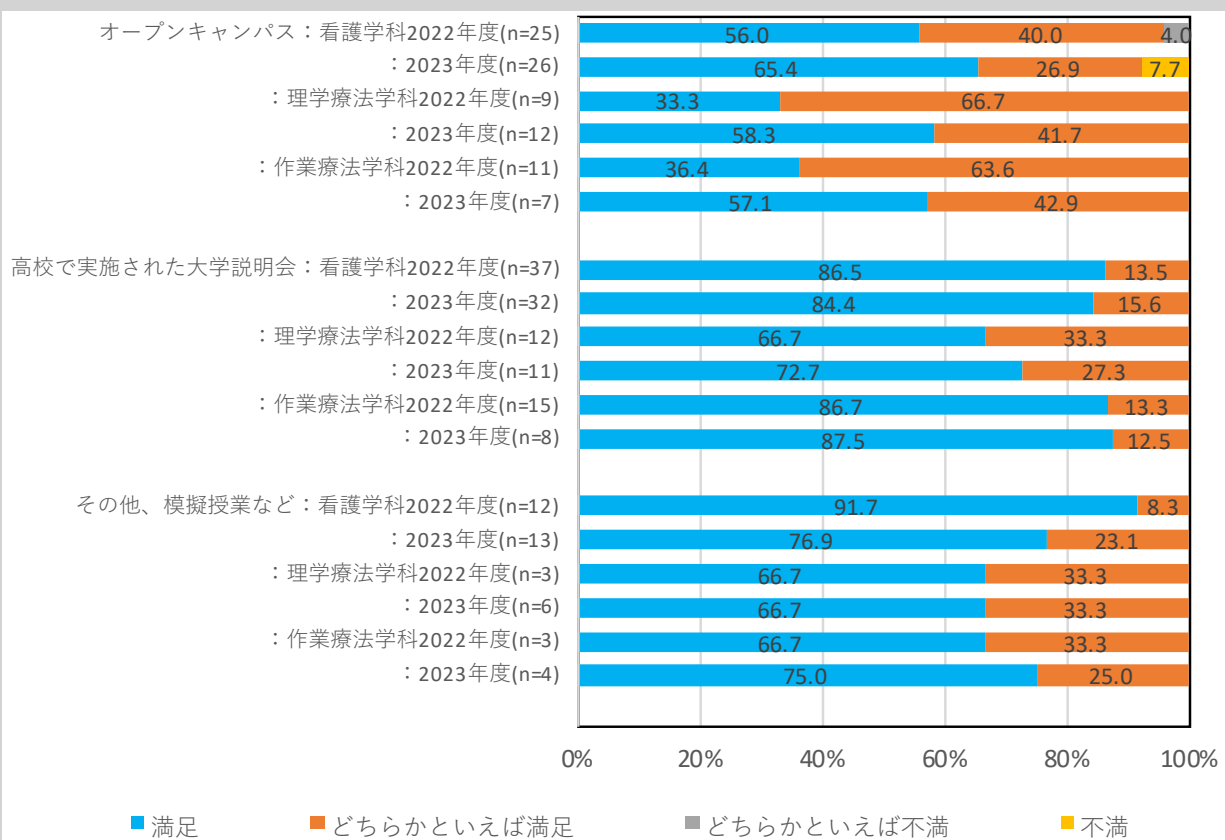


図19. 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか

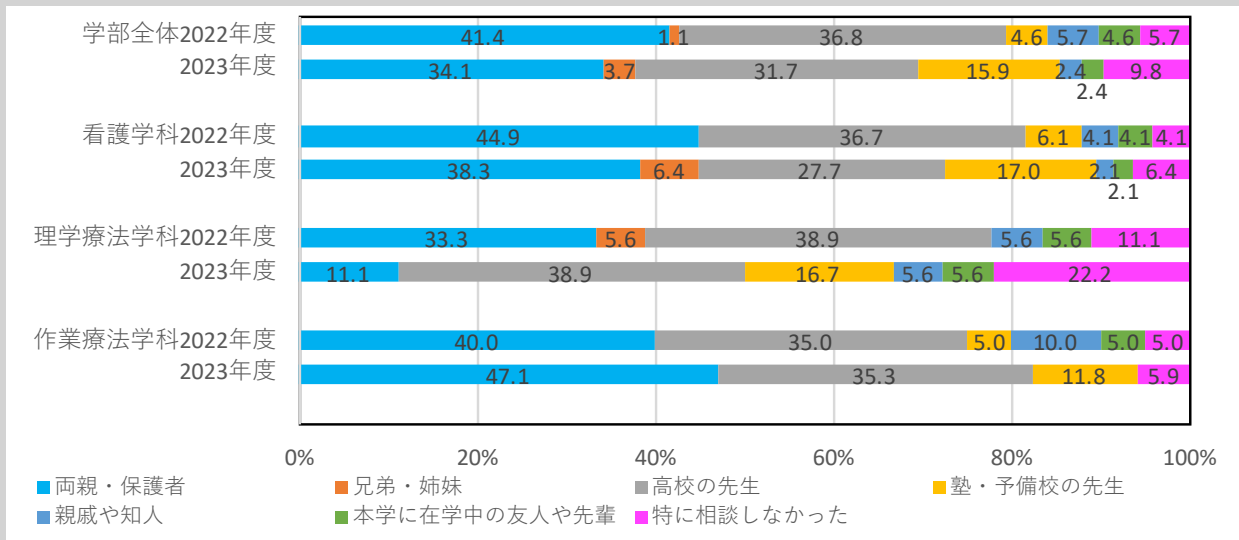


図20. 札幌医科大学の選択理由 (学部全体)

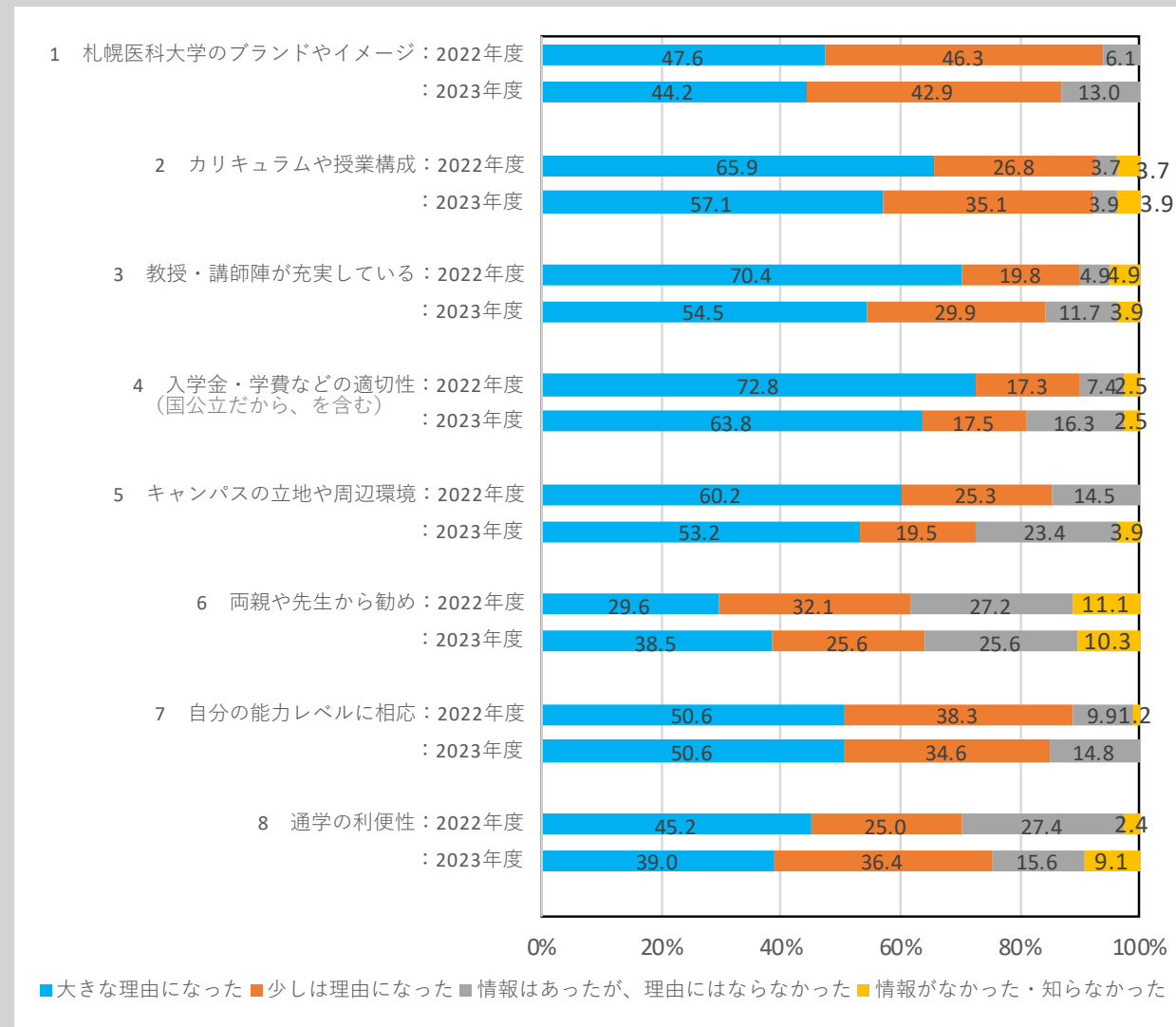


図21. 札幌医科大学の選択理由（学科別）

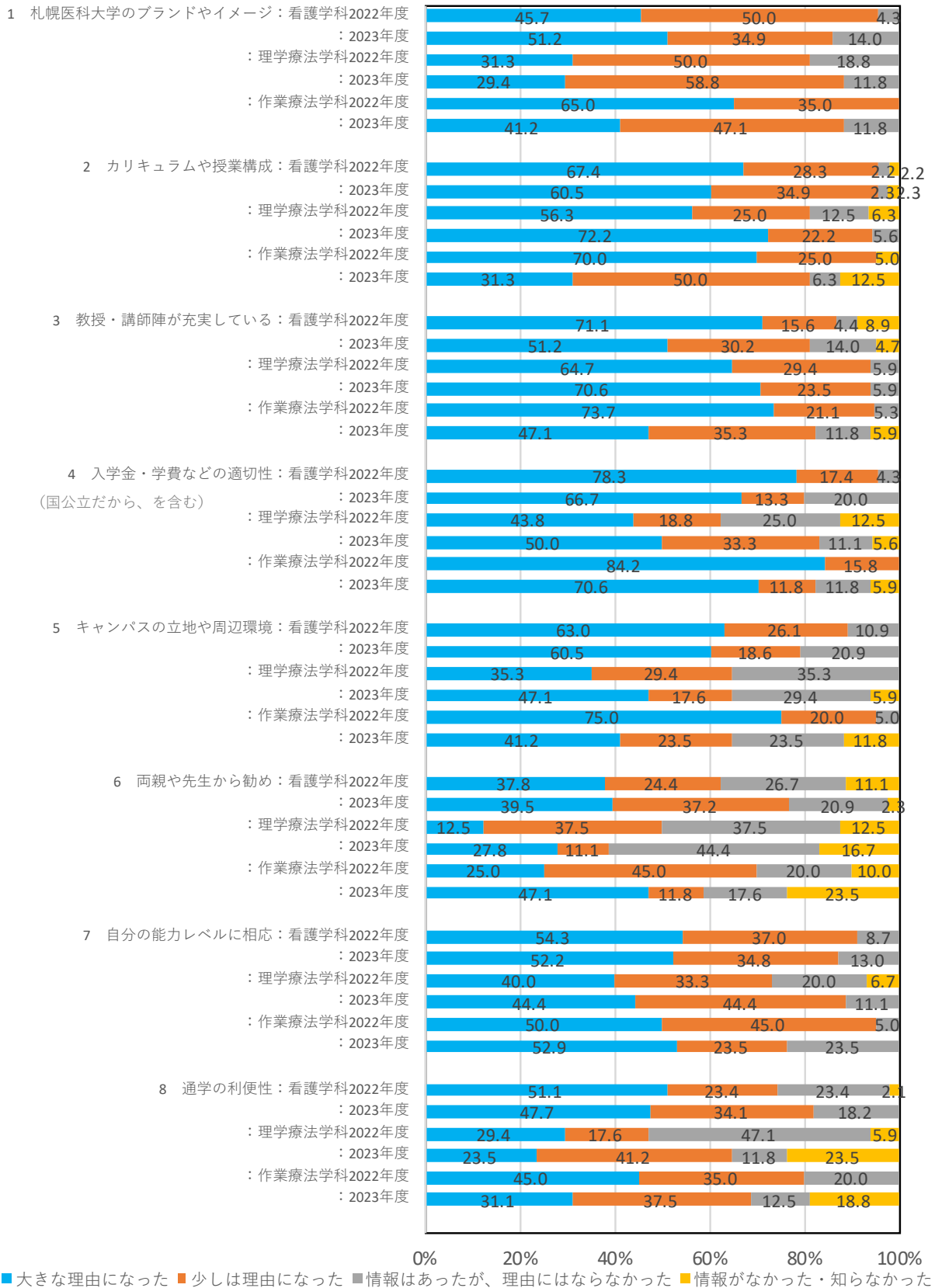


図22. 札幌医科大学の魅力

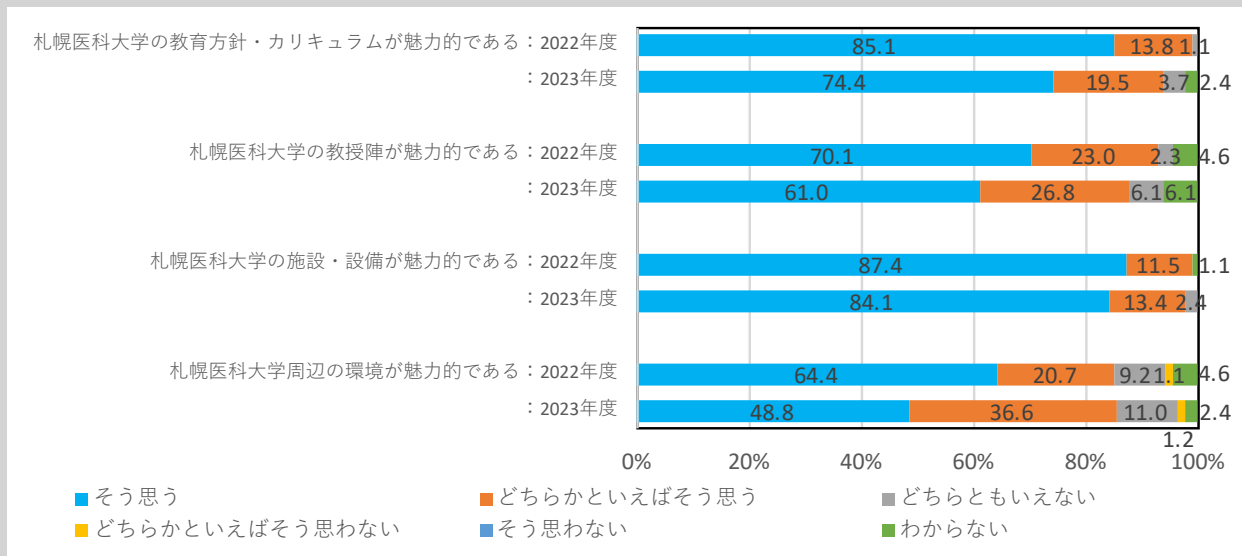


図23. 札幌医科大学の魅力（学科別）

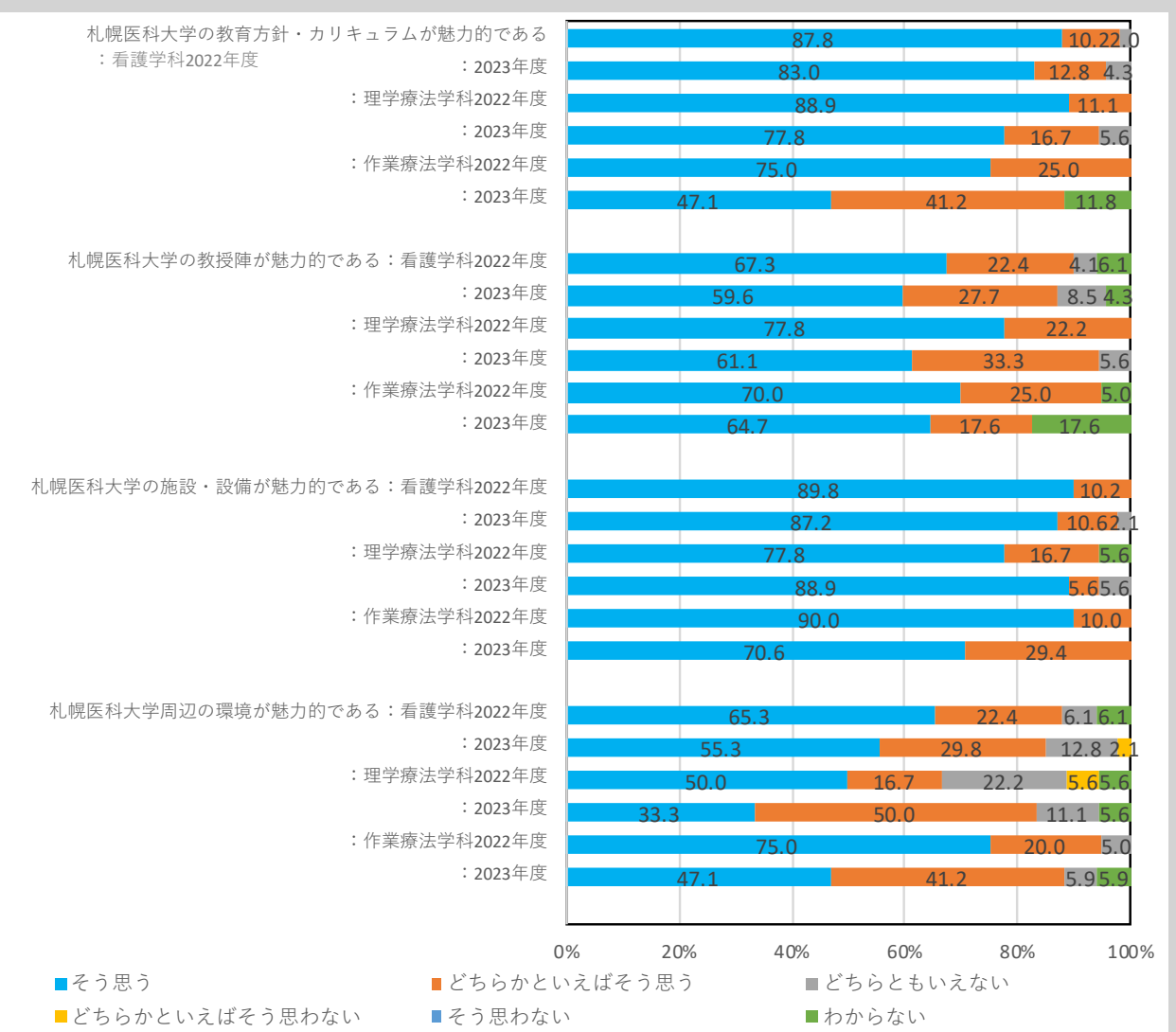


図24. 建学の精神（進取の精神と自由闊達な気風、医学・医療の攻究と地域医療への貢献）の認知度

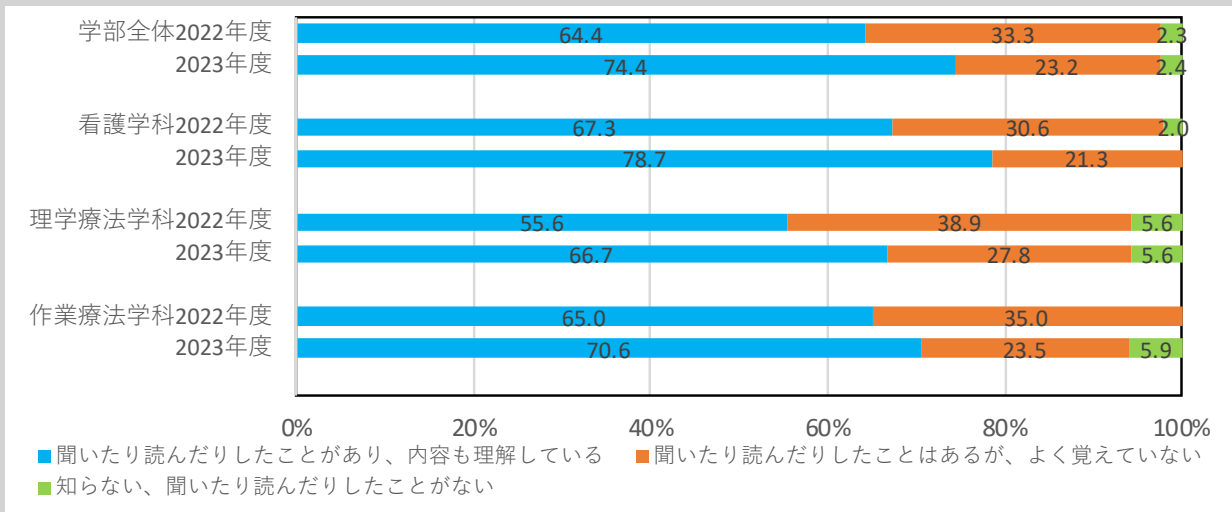


図25. アドミッションポリシーの認知度

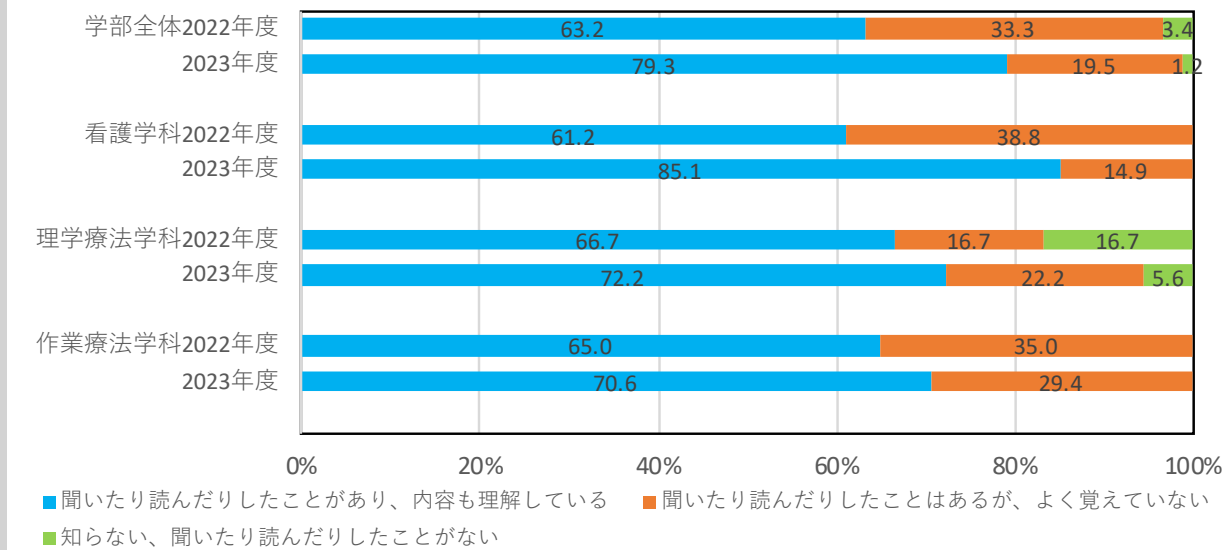


図26. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち：1. 入学を希望していた大学である

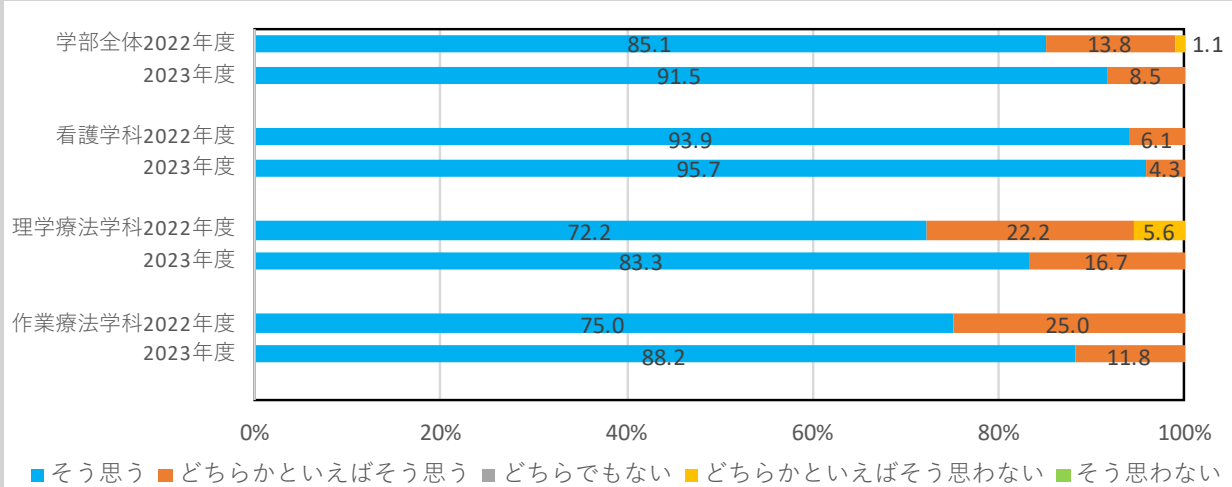


図27. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち:2.入学した学部は希望通りの学部である

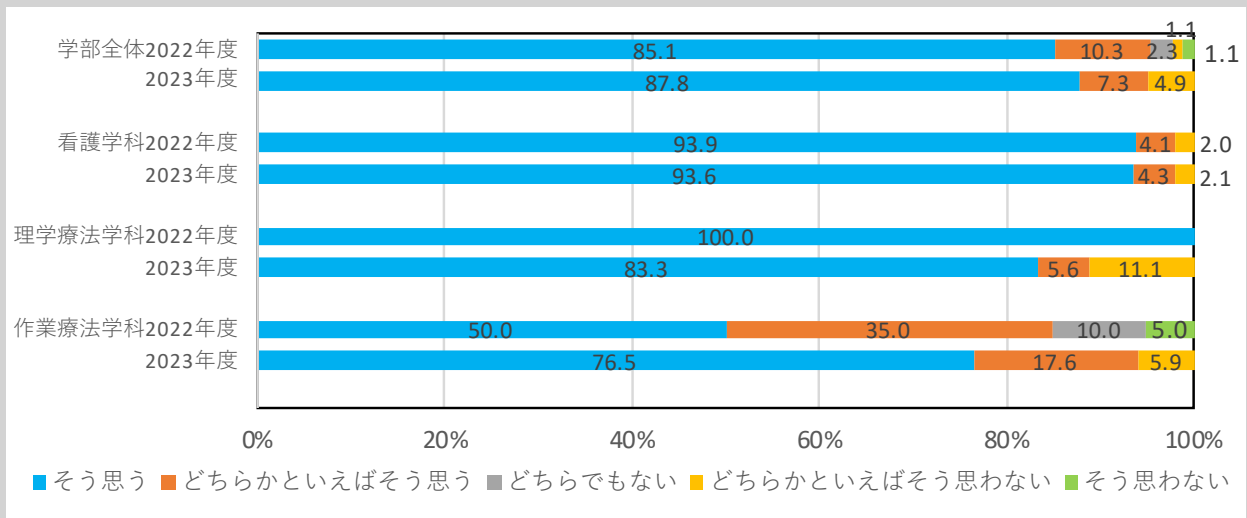


図28. 入学にあたって、不安に思っていること（複数回答可）

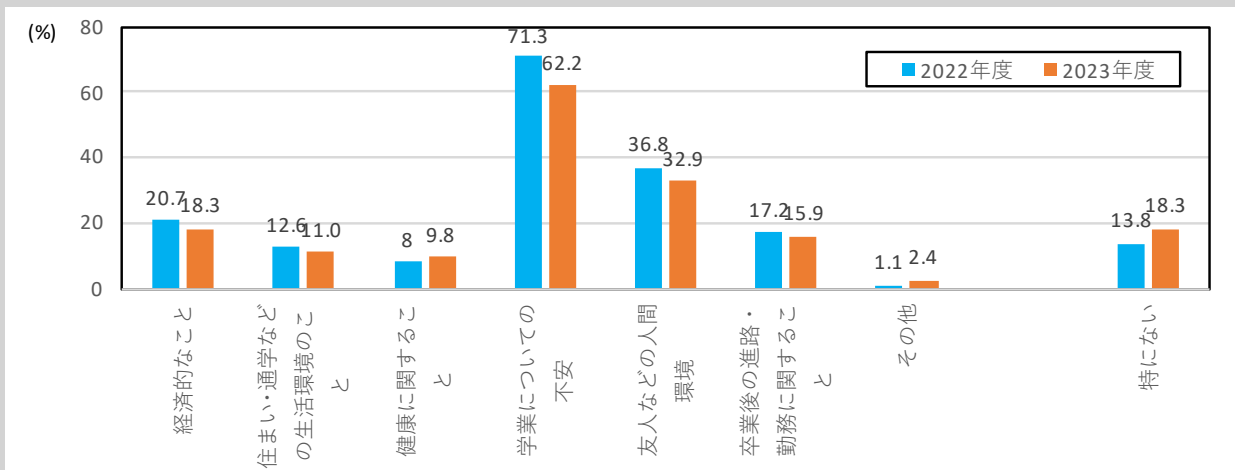


図29. 入学にあたって、不安に思っていること（複数回答可）：学科別（2023年度）

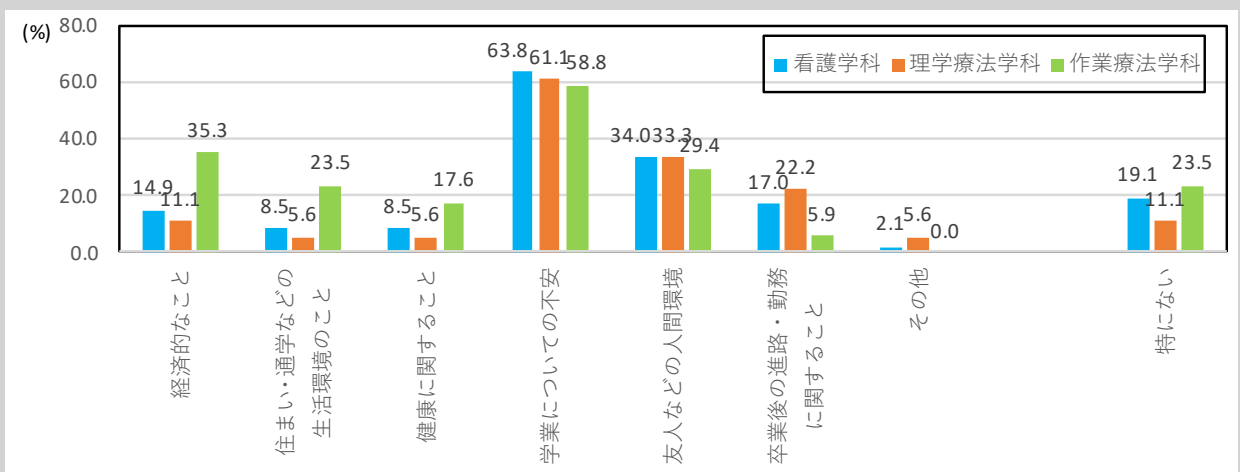


表2. 現在（4月）困っていること（自由記載）

<看護学科>

- ・理系科目が苦手なため、勉強についていけるかが心配です。
- ・履修登録よく分からないこと。
- ・友達ができるか不安です。
- ・同じ高校から看護学科に来た人が誰もいないので、人間関係がうまく行くか不安です。
- ・ワクチン接種について（*記載改変あり）
- ・持病について（*記載改変あり）

<理学療法学科>

- ・将来像が見えていないことによる不安
- ・まだよく学校の教室の位置を理解出来てない

<作業療法学科>

- ・持病について（*記載改変あり）

図30. 大学生活の中で力を入れたい活動

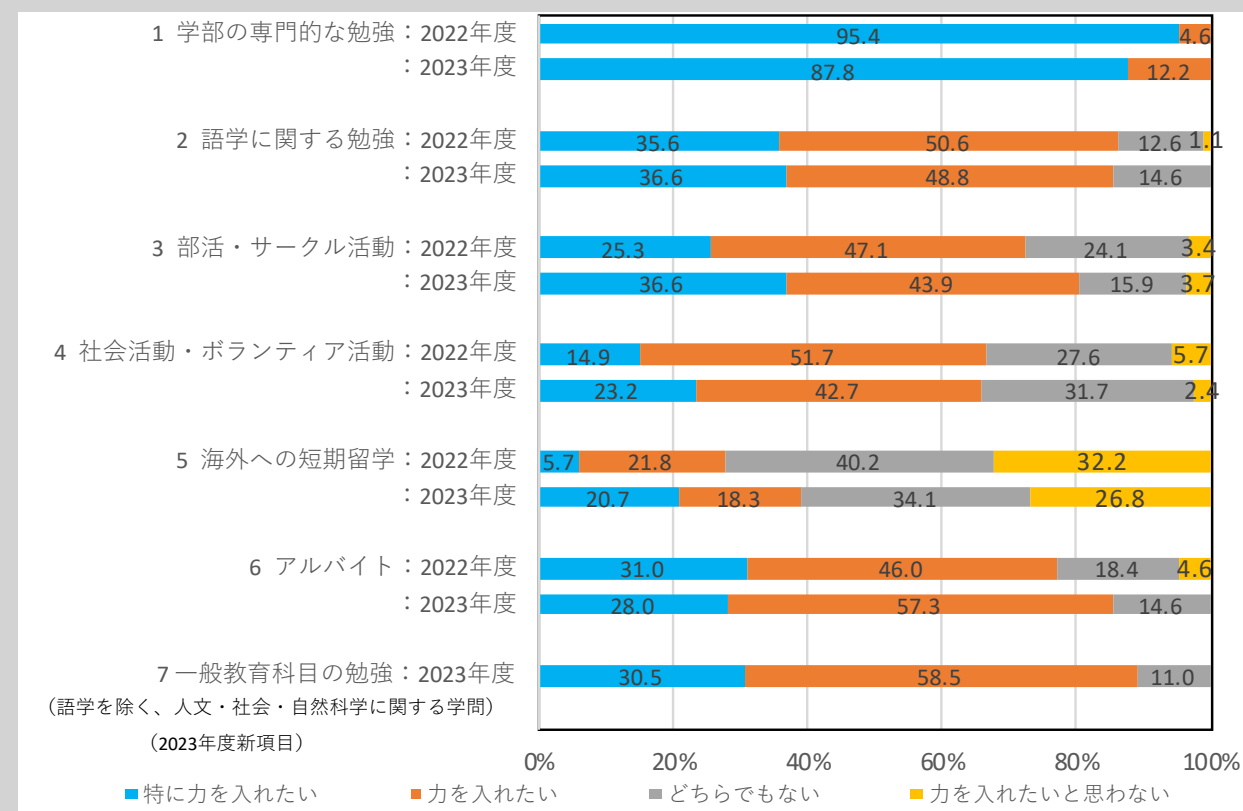


図31. 大学生活の中で力を入れたい活動（学科別）

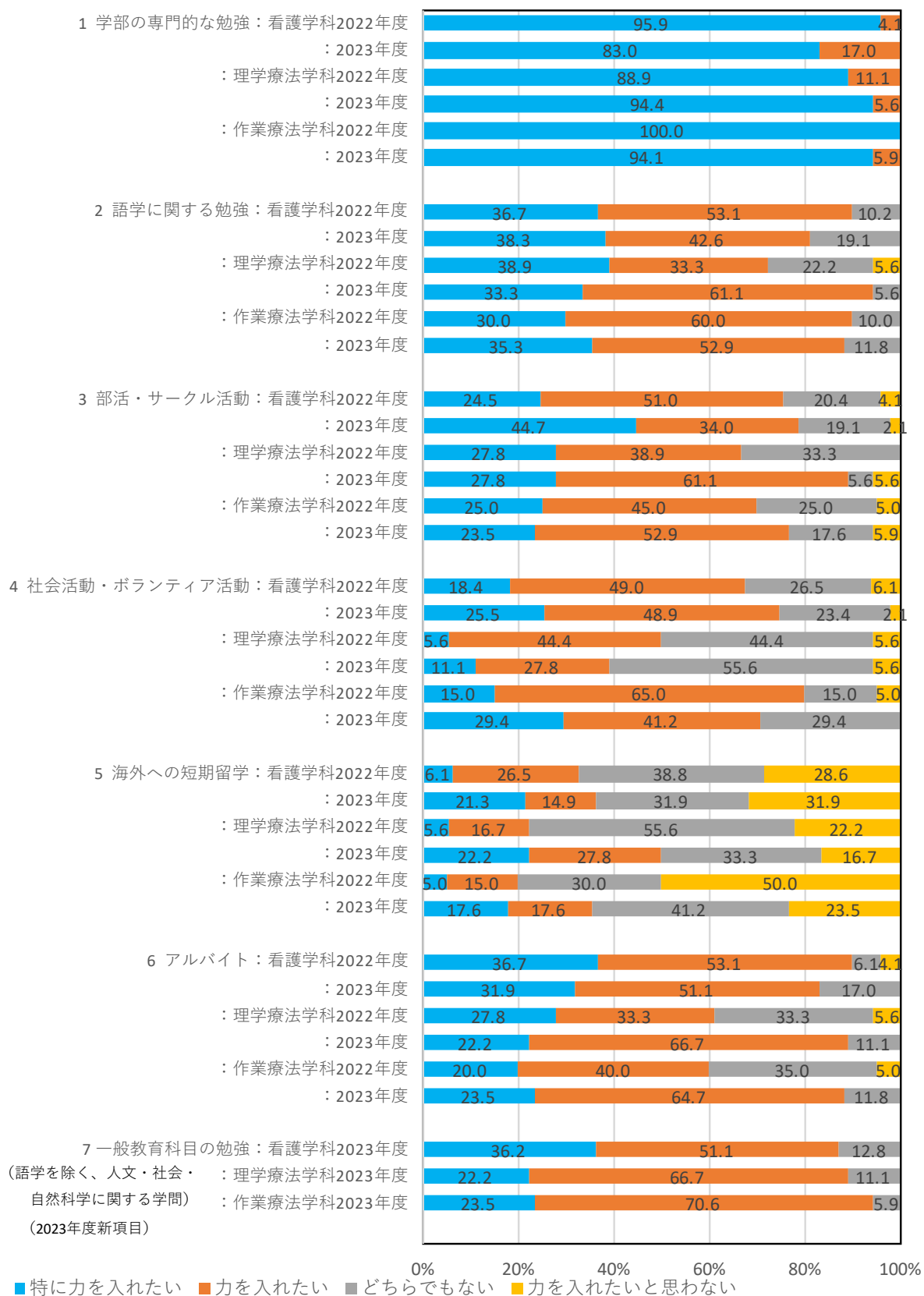


表3. 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（自由記載）

<看護学科>

- ・チーム医療についてや救急の知識を身につけたいので普通の講義に力を入れたいです。
- ・医療に関する専門的な知識や、人との関わりなど将来役にたつ知識を身に付けたい。また、1人での生活をしっかりとこなして自立し、部活や勉強をしっかりと両立させたい。
- ・医療に対する深い知識を身につけたい。|部活動などを通して交友関係を広げたい。
- ・医療人としての専門的な知識・技術や、倫理的態度を身につけるため、学習に励みたい。
- ・看護の基礎知識を学ぶとともに、コミュニケーション能力を得るためにサークル活動にも積極的に取り組みたいです。
- ・看護師としての高い知識や技術を身に付けたい。
- ・看護師としての専門的な知識と、他人との良好な関係作りを学びたい。そのために授業の復習を確実にこなうこと、様々な人と関わりたい。
- ・看護師になるために必要なことはもちろんそれ以外の科目の勉強も頑張りたい。看護学部だけではなく他の学科は学部の人とも関わっていききたい。
- ・看護師になるために必要な勉強を頑張りたいです。
- ・基本的なことをきちんと身につけた上で、さらによりレベルの高い知識や技術を得たいので、まずは基本的なことを身につけることを目標に学習に取り組みたい。また他学科・他学部との交流もたくさんしたい。
- ・札幌医科大学では、自分の理想像としてある看護師の姿を目指すために、一般教育科目や専門科目の勉強は勿論のこと、部活動に取り組んだり友だちとの交流を深めたりして、コミュニケーション能力を育みたいです。
- ・札幌医科大学を卒業したあと、専攻科にいきたいので勉強をしっかりとしたい。そのために、色々なことを教えて頂きたい。また、勉強だけでなく部活動にも積極的に参加したい。
- ・私が理想とする同じ職場で働いている方、患者さん、その家族に頼りにされる看護師になるために幅広い知識、確かな技術をもてるように、日々の授業、実習などに全力で取り組みたいです。
- ・自分の意見を持って分かりやすく説明する力を備えていきたい
- ・質問しに言った際に受け入れてくれる姿勢。一つ一つの授業を真剣に取り組みながら、並行してボランティアやサークル活動、アルバイトにも力を入れていきたいです。
- ・充実したカリキュラムでの専門的な学習
- ・将来のキャリアに役立つ専門知識やコミュニケーション能力の向上、リーダーシップの力の育成、そして倫理的態度を身につけることを求めます。学業に集中すること、他職種との関わりが豊富な環境を重宝して様々な活動に
- ・少人数体制や優良なカリキュラムを生かして、少しでも多くの学びを得たいです。看護師になりたいことだけしか将来の目標が定まってないので、勉強しながらどんな看護をしたいのか考えていきたいと思う。
- ・色々な学科の専門性を高めて興味の持てることを探究していきたいです。
- ・深い教養のある医療人になるために勉強を頑張りたいです。
- ・専門知識だけでなく人間として必要な教養も身に付け、人とコミュニケーションを取る力をさらに伸ばしたい。
- ・専門知識と技術を身につけると、一般教養も広く学びたい。部活やサークル活動と両立したい
- ・専門的な学習やサークル活動
- ・専門的な分野のレベルの高い教育を求めています。|勉強ももちろんですが、友人との交流や部活動にも取り組みたいです。
- ・地域医療について
- ・同じ医療従事者を目指す仲間たちと一緒に交流したり授業に取り組み、多職種連携の大切さを学びながら医療の知識を深めていきたいです。さらには私は英語を学ぶことが好きなので積極的に英語を使う場に参加したり、日本語だ
- ・保健師になるための学習を深めたい
- ・様々な人に会って、多様な価値観や考え方を知ること。|将来の投資として様々な知識を取り入れること。

<理学療法学科>

- ・スポーツに興味を持っているので専門的な知識を身につけると共に英語の勉強にも励み、大学院に行きたいです。
- ・スポーツ医学について深く学びたいと思っていてそのためには専門の先生の前で学びたい。また、理学療法に関することを多く学びたい
- ・スポーツ医療と地域医療について学びたい。
- ・医学はもちろんですが、海外にも興味があるので言語学や国際社会系の勉強にも取り組んでいきたい
- ・自分の理想とする理学療法士の姿に近づくための学習に取り組みつつ、人間としての幅を広げていきたい。
- ・専門知識についての知識を身につけ、深めていきたい。|また、一般教養についても学べる環境が整っていると思うので幅広い知識を身につけていきたい。
- ・附属病院があることから様々な症例と出会い、同業者の中でも知識や経験が豊富な理学療法士として現場で動きたいので積極的に授業や実習に取り組んでいきたい。
- ・幅広い教養を身につけることはもちろん、自分が目指す進路を専門としている先生方とコミュニケーションをとっていきたい。また、語学の学習にも力を入れていきたい。
- ・北海道の地域医療について深く学びたい。
- ・地域医療についてとても興味があり、地域医療について学びたいと思い札幌医科大学に入学したため、地域医療合同セミナーに参加したいと思っています。
- ・自分が興味を持つことを見つける。

<作業療法学科>

- ・高度な医療教育に取り組みたい
- ・札幌医科大学では医療人として患者さんと医療関係者の方とも協力してリハビリに励むことができるようにコミュニケーション力を身につけたいです。そのためにサークルなどを通して多くの人間関係を作りたいと思います。ま
- ・将来作業療法のリーダーとなっていけるようなスキルを培うための技術を求め、多くの人と関わり話し合うということに取り組みたいです。
- ・相手と良い関係を作れる作業療法士になるために、コミュニケーション能力を培いたいと思っています。
- ・他の人とは違うより光る作業療法士を目指したい。多くのことに挑戦して経験値を増やしたい。
- ・地域に貢献するために主体的に学びたい、
- ・地域医療合同セミナーに興味があるので、参加したいと考えています。
- ・様々な人との交流を深め、たくさんの経験を積みたい。
- ・他学科の人や年代の離れた人と関わる機会を増やしたい
- ・作業療法に限らず、様々なことについて深く学びたい
- ・良い意味で周りに流されず、自分が興味を持ったことには恐れずに積極的に挑戦したい。

IV. 資料 (調査票)

学籍番号 () 氏名 ()

以下の設問について、選択で回答するものについては、数字に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的に記入してください。

①あなたが高校3年生(2月時点)の時に居住していた地域を教えてください。

1	札幌市内	2	札幌市外(北海道内)	3	札幌市外(北海道外)
---	------	---	------------	---	------------

②あなたが入学した入試区分を選択してください。

1	一般選抜	2	学校推薦型選抜	3	その他 ()
---	------	---	---------	---	--------------------------

③あなたが進路選択をする際に役立った情報を選択してください(複数選択可)

1	大学パンフレット	2	大学ホームページ	3	大学ポスター
4	受験企業等のWEBサイト	5	受験雑誌	6	新聞記事等
7	その他 ()				

④あなたが本学を知るうえで役立った情報源を選択してください(複数選択可)

1	広告媒体	2	オープンキャンパス	3	入試相談・説明会
4	出前授業	5	高校の先生	6	予備校
7	家族・親戚	8	知人・先輩	9	その他 ()

⑤札幌医科大学への入学決定にあたって、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

		そう思 う	どちら かとい えばそ う思 う	どちら でもな い	どちら かとい えばそ う思 わ ない	そう思 わない
1	入学を希望していた大学である	5	4	3	2	1
2	入学した学部は希望通りの学部である	5	4	3	2	1

⑥あなたは、高校3年生の9月（昨年の9月）頃において、平日に学校等の授業以外で1日平均何時間くらい勉強していましたか。（授業の予復習のほか、予備校、学校での課外の補習・講習を含む）

1	ほとんどしなかった	2	1時間未満	3	1～3時間未満
4	3～5時間未満	5	5～7時間未満	6	8時間以上

⑦あなたは、高校時代の学習において、以下の様な経験をしたことがありますか。

		ある	ない	わからない
1	自分から先生に質問や相談に行く	3	2	1
2	自分で設定したテーマについて学習する	3	2	1
3	学習したことについてプレゼンテーションを行う	3	2	1
4	複数の生徒で一つのテーマ（課題）に取り組む	3	2	1
5	生徒同士でディスカッションを行う	3	2	1

⑧札幌医科大学を受験することを決定したのはいつ頃ですか。

1	高校入学前	2	高校1年生	3	高校2年生
4	高校3年生4～12月	5	高校3年生1月以降	6	高校卒業後

⑨あなたは進学や受験の時に、どんなことを理由に札幌医科大学を選びましたか。

		大きな理由になった	少しは理由になった	情報はあったが、理由にはならなかった	情報がなかった・知らなかった
1	札幌医科大学のブランドやイメージ	4	3	2	1
2	カリキュラムや授業構成	4	3	2	1
3	教授・講師陣が充実している	4	3	2	1
4	入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）	4	3	2	1
5	キャンパスの立地や周辺環境	4	3	2	1
6	両親や先生から勧め	4	3	2	1
7	自分の能力レベルに相応	4	3	2	1
8	通学の利便性	4	3	2	1

⑩札幌医科大学への入学（受験）を決めるにあたり、もっとも重視したのは誰からの意見やアドバイスでしたか。

1	保護者	2	兄弟・姉妹	3	高校の先生
4	塾・予備校の先生	5	親戚や知人	6	本学に在学中の友人や先輩
7	特に相談しなかった				

⑪札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会に参加した際の満足度についてお答えください

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	参加せず
1	オープンキャンパス	4	3	2	1	0
2	高校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
3	塾・予備校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
4	一般の会場で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
5	その他、模擬授業など	4	3	2	1	0

⑫あなたが考える札幌医科大学の魅力についてお答えください。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
1	札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である	5	4	3	2	1	0
2	札幌医科大学の教授陣が魅力的である	5	4	3	2	1	0
3	札幌医科大学の施設・設備が魅力的である	5	4	3	2	1	0
4	札幌医科大学周辺の環境が魅力的である	5	4	3	2	1	0

⑬あなたは札幌医科大学の建学の精神（「進取の精神と自由闊達な気風」「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」）であることを知っていますか

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑭あなたは札幌医科大学保健医療学部のアドミッション・ポリシー（大学がどのような学生を入学者として求めているか明文化したもの）を知っていますか。

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑮現時点であなたは、以下の知識・能力についてどの程度備わっていると考えていますか。

		充分備わっている	ある程度は備わっている	どちらでもない	あまり備わっていない	全く備わっていない
1	医療系の専門に係る知識	5	4	3	2	1
2	幅広い教養	5	4	3	2	1
3	英語（外国語）の運用能力	5	4	3	2	1
4	社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力	5	4	3	2	1
5	課題を解決するための問題解決力	5	4	3	2	1
6	異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力	5	4	3	2	1
7	他者とのコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
8	パソコンのソフトウェアの操作（Word, Excel, Powerpoint など）	5	4	3	2	1
9	SNS を安全に使うためのルール、方法	5	4	3	2	1

⑯大学生活の中でどのような活動に力を入れたいと考えていますか。

		特に力を入れたい	力を入れたい	どちらでもない	力を入れたいと思わない
1	学部の専門的な勉強	4	3	2	1
2	語学に関する勉強	4	3	2	1
3	一般教育科目の勉強（語学を除く、人文・社会・自然科学に関する学問）	4	3	2	1
4	部活・サークル活動	4	3	2	1
5	社会活動・ボランティア活動	4	3	2	1
6	海外への短期留学（短期 は不要では）	4	3	2	1
7	アルバイト	4	3	2	1

⑰入学後の住まいについて教えてください。

1	自宅（親所有の家・マンション等）	2	アパート（賃貸）
3	下宿・寮	4	その他（ ）

⑱入学後の主な通学手段を教えてください。（複数選択可）

1	徒歩	2	自転車	3	地下鉄
4	バス	5	市電	6	その他（ ）

⑲入学にあたって、不安に思っていることを教えてください。（複数回答可）

1	経済的なこと	2	住まい・通学などの生活環境のこと	3	健康に関すること
4	学業についての不安	5	友人などの人間環境	6	卒業後の進路・勤務に関すること
7	特になし	8	その他（ ）		

⑳あなたは携帯端末を持っていますか。（複数回答可）

1	持っている（スマートフォン）	2	持っている（ガラケー）	3	持っている（タブレット・pad）
4	持っていない				

㉑あなたは自分専用あるいは家族で共有しているパソコンを持っていますか。

1	自分専用の PC を持っている	2	家族と共有の PC を持っている	3	持っていない
---	-----------------	---	------------------	---	--------

㉒㉑で回答した PC から印刷できるプリンターがありますか。

1	ある	2	ない		
---	----	---	----	--	--

㉓あなたは札幌医科大学で、何を求め、どんなことに取り組みたいですか。（自由記載）

㉔現在、何か困っていることがあれば教えてください。（自由記載）

※今回のアンケート調査をさらに掘り下げるためにインタビュー調査に協力していただけますか？

協力してもよいという方は数字に○をつけてください

- 1 協力してもよい 2 協力しない

ご協力ありがとうございました。